

官報 號外

明治三十四年十二月二十七日 金曜日 印刷局

第十六回 帝國議會 衆議院議事速記録第五號

明治三十四年十二月二十六日(水曜日)午後一時十分開議

議事日程 第四號 明治三十四年十二月二十六日

午後一時開議

- 第一 畜牛結核病豫防法中改正法律案(政府 第一讀會ノ續(委員長報告))
- 第二 蟲害地租特別處分法案(橋本久太郎 外三名提出) 第一讀會
- 第三 登錄稅法中改正法律案(鹽田忠左衛門提出) 第一讀會
- 第四 關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案(早川龍介外四名提出) 第一讀會
- 第五 家祿賞典祿處分法中改正法律案(榎松隆慶外五名提出) 第一讀會
- 第六 京都府下國界並郡界變更法律案(野尻岩次郎 外二名提出) 第一讀會
- 第七 社寺上地林保管法案(出水彌太郎 外二名提出) 第一讀會
- 第八 社寺上地林處分法案(出水彌太郎 外二名提出) 第一讀會
- 第九 監視廢止ニ關スル法律案(安藤龜太郎提出) 第一讀會

○議長(片岡健吉君) 諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

菅野善右衛門君提出東北大演習ニ於ケル日鐵會社ノ一大失行ニ關スル緊急質問ニ對シ芳川遞信大臣ヨリ左ノ答辯アリ

衆議院議員菅野善右衛門君提出東北大演習ニ於ケル日鐵會社ノ一大失行ニ關スル緊急質問ニ對シ別紙遞信大臣答辯書及御回付候也

明治三十四年十二月二十日 內閣總理大臣子爵桂太郎

衆議院議員片岡健吉君 衆議院議員菅野善右衛門君提出東北大演習ニ於ケル日鐵會社ノ一大失行ニ關スル緊急質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治三十四年十二月十七日 遞信大臣子爵芳川顯正

衆議院議員菅野善右衛門君提出東北大演習ニ於ケル日鐵會社ノ一大失行ニ關スル緊急質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治三十四年十二月十七日 遞信大臣子爵芳川顯正

衆議院議員菅野善右衛門君提出東北大演習ニ於ケル日鐵會社ノ一大失行ニ關スル緊急質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治三十四年十二月十七日 遞信大臣子爵芳川顯正

貴族院ヨリ送付セラレタル政府提出案左ノ如シ

貴族院ヨリ送付セラレタル政府提出案左ノ如シ

大藏省證券條例中改正法律案

特許法中改正法律案

貴族院ハ本月二十六日ヨリ來ル明治三十五年一月十五日マテ休會ノ旨同院ヨリ通牒アリ

官報號外 明治三十四年十二月二十七日(明治三十五年第三種郵便物認可)

衆議院議事速記録第五號 議長ノ報告

四七

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

監視廢止ニ關スル法律案

提出者 安藤龜太郎君

京都府下國界並郡界變更法律案

提出者 野尻岩次郎君

關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案

提出者 早川龍介君

治水制度調查會設置ニ關スル建議案

提出者 堀越寬介君

委員長及理事左ノ適當選セラレタル

私設鐵道新線補助成案提出ニ關スル法律案

委員長 鯨島相政君

清國事件ニ關スル償金特別會計法案

委員長 松田正久君

國債證券買入銷却法廢止法律案

委員長 長谷場純孝君

國稅徵收法中改正法律案外二件

委員長 野間豐五郎君

市制中改正法律案外三件

委員長 大三輪長兵衛君

地租條例中改正法律案

委員長 有村連君

畜牛結核病豫防法中改正法律案

委員長 佐藤昌藏君

國有森林原野入會ニ關スル法律案外三件

委員長 伊東四郎君

決算委員補選選舉ニ於テ西川宇吉郎君當選セラレタル

花井卓藏君宮原幸三郎君ヨリ白露國ニ於ケル移民ノ保護ニ關スル件、菅野善右衛門君ヨリ鐵道職員資格制定調査ニ關スル件、國務大臣カ神聖ナル衆議院ヲ欺キタル事件ニ關スル件、望月長夫君ヨリ清國事變ニ關スル一時賜金交付方ニ關スル件ニ付質問趣意書ヲ提出セラレタル

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

白露國ニ於ケル移民ノ慘狀保護ニ關スル質問書

右成規ニ依リ提出候也

明治三十四年十二月二十三日

提出者 花井卓藏 贊成者 安部井磐根

外三十一名

明治三十二年二月二十八日白露國ニ於ケル移民ノ慘狀保護ニ關スル質問趣意書

新潟、山口、岡山ノ四縣ヲ通シテ七百八十餘名アリ風土、氣候ノ變上陸ノ後、一箇月ヲ出スシテ病歿ニ臥スルモノ十中八九ヲ占ム鬼籍ニ上リタルモノ亦

一百七十名ノ多キニ達セリ而シテ其生存者中或ハ儲主ノ亡狀ニ堪ヘスシテ飢ニ迫リ憐ヲ道途ニ乞フモノアリ或ハ儲主ノ甘言ニ欺カレテ無條約國ナル「ボリビヤ」國ノ野ニ誘致セラレ若シテハ一万八千餘尺ノ高山ヲ踰ヘテ「チヤンヂヤ」ヨウノ僻地ニ誘致セラレ涙ヲ悲慘ノ境ニ吞ムモノアリ而シテ彼等移民ハ屢々狀ヲ具シテ外務大臣並ニ所屬地方廳ニ哀訴シ歸國ニ關スル保護ヲ請願ヲナスコト幾回ノ多キニ及ヘリ然ルニ政府之ヲ省セサルハ如何、依テ本員ハ左ノ三點ニ關シ政府ノ意見ヲ問ハントス

一 政府ハ移民ノ慘狀ニ關シ何等ノ調査ヲナシ何等ノ結果ヲ得タル乎
二 政府ハ移民ノ慘狀如此ヲ見テ仍ホ帝國ノ國辱ニ非ストスルカ生民ノ安危ニ關セストスル乎
三 政府ハ彼等移民ノ請願ニ對シ何等ノ方策ヲ探ラントスル乎
右及質問候也

鐵道職員資格制定調査ニ關スル質問書
右成規ニ據リ提出候也
明治三十四年十二月二十五日
提出者 菅野善右衛門

贊成者 寺田 彦太郎 外三十四名

鐵道職員資格制定調査ニ關スル質問書

鐵道職員ハ專門ノ學識ト技術ト熟練トヲ要スル論ヲ待タズ近來鐵道ハ災害多キ所以ノモノハ鐵道職員中專門ノ學識ト技術ト熟練トヲ缺クモノ多キ爲ニハアラサルカ政府ハ如何ナル規定ヲ設ケ如何ナルモノノリヲ採用シ亦採用セシメテ來レルカトノ第十四議會ニ於ケル衆議院ノ質問ニ對シ鐵道職員ノ資格ニ付テハ鐵道ノ發達ニ伴ヒ相當ノ規制ヲ定メンコトヲ期シ目下調査中ニ關シ答辯セラレタリ然ルニ其後二箇年ヲ經過スルモ未タ鐵道職員ノ資格ヲ制定セラタルヲ公ニセラレス如何セシ未熟練者ヲ以テ其ノ職ヲ掌ラシメ數多ノ人ヲ殺傷シタル實例アリ今其一例ヲ左ニ示サン
明治三十二年十月七日ノ暴風ニ際シ日鐵會社ノ列車第川ヨリ顛覆セシメ數十名ノ殺傷慘事ヲ演シタル當時ノ同列車ニ乘組ミタル車掌等ハ實ニ左ノ如キ未熟練者ノモノトモナリキ
車掌下山源五郎ハ車掌見習ヨリ車掌ヲ命ゼシ迄ノ日子ハ僅カニ二箇月ナリ車掌黒屋亥年作ハ車掌見習ヲ命ゼシヨリ列車顛覆ノ當日マテ日子ハ僅カニ一箇月三日ナリ
車掌石井常藏ハ車掌見習ヨリ車掌ヲ命ゼシ迄ノ日子ハ僅カニ二十五日間ナリ

斯ノ如キ未熟練マレル見習ノ者ヲシテ普通ノ熟練ヲ俟テ後其ノ職ヲ掌ラシムヘキハ素ヨリ當然ナル事茲ニ出テテモ暴風襲來ノ警報モアリ特ニ警戒線内ヲ進行セシムヘキ汽車ノ運轉ヲ最モ未熟練ナル者ヲ以テ其職ニ當ラシメ明治三十二年十月七日ニハ日鐵會社ノ客車第川鐵橋上ヨリ顛落セシメ數十人ノ死傷者ヲ出シタル實ニ鐵道職員ノ資格ヲ定ムルハ緊急ノ問題ニ屬ス依テ其ノ調査ノ額未詳細速ニ明示セラレンコトヲ望ム
鐵道職員資格制定調査ニ關スル質問理由書
凡ソ文明ノ利器ハ其反面ニ危險ノ伏スルモノナルコトハ常理ナリ故ニ之レカ取扱ヲナスモノハ相當ノ學力ト相當ノ經驗トヲ要スルヲ論ナシ鐵道事業ノ如キ亦然リトス
然リ而シテ均シク汽罐ニ依リテ以テ貴重ナル人命財產等ヲ運搬スル船舶ニアリテハ其取扱者ハ相當ノ學識ト相當ノ經驗トヲ有スルモノヲシテ之レニ

從事セシマツアリ然ルニ汽車ニアリテハ其取扱ヲナス職員選擇ニ至リテハ何等ノ規定ナシ第十四議會ニ於テ衆議院ノ質問ニ對シ政府ハ其資格制定ノ必要ヲ認メ調査中ナリト答辯セリ爾後二箇年ヲ經過シタル今日政府ハ尙ホ列車運轉ノ衝ニ當ルモノノ資格選擇規定ヲ設ケサルハ事變ヲ等閑ニ附スルモノト認ム之レ此質問書ヲ提出スル所以ナリ
國務大臣カ神聖ナル衆議院ヲ欺キタル事件ニ關スル質問書
右成規ニ據リ提出候也
明治三十四年十二月二十五日
提出者 菅野善右衛門

贊成者 寺田 彦太郎 外三十四名

第十四議會ニ於ケル衆議院ノ質問ニ對シ風災豫防方法ニ就テハ特ニ專門學藝ニ屬スル講究ヲ要スルカ故ニ委員ヲ設ケ調査中ナリト答辯セラレタリ然ルニ列車風災豫防方法ハ明治三十二年鐵道乙第二〇六三號ヲ以テ達セシモアラシモノ係ラス大逆無道ニモ神聖ナル衆議院ヲ欺キ之レヲ掩蔽セラレハ抑モ何等ノ必要アリシニ依リシカ思フニ日鐵會社職員等カ該豫防方法ヲ遵守セザリシ結果トシテ列車顛覆ノ一大慘事ヲ惹起シタル過失ノ責任ヲ免カシメントシタルモノト推斷セサルヲ得ス
若シ然ラシメントセハ其掩蔽セサルヲ得サリシ事實ノ詳細ヲ速ニ答辯アラントヲ要求ス

國務大臣カ大逆無道ニモ神聖ナル衆議院ヲ欺キタル事件ニ關スル質問理由書

國務大臣カ神聖ナル議會ヲ欺罔スルニ至リテハ明治ノ聖代モ亦暗黒時代ナリト斷言セサルヲ得ス果シテ然リトセハ一日片時モ默視スルヲ得サルナリ然ルニ此聖世ニ斯クノ如キ野蠻時代ノ餘風アルヘキ理ナシト信スレトモ今ヤ大々的疑點ノ存スルモノアリ故ニ爰ニ欺罔ノ事實ヲ明了ナラシメンカメ明治三十二年鐵道乙第二〇六三號ヲ添附シ質問スル所アラントス之レ此(參照)
鐵道乙第二〇六三號

暴風雨ノ警報アルトキニ於ケル心得左ノ通り相定ム
運輸事務所 各驛 機關庫

- 第一條 暴風雨ノ警報アルトキハ運輸部長ハ運輸事務所長(若クハ驛長)ヘ又汽車部長ハ機關庫主任ニ警報電報ヲ發ス此場合ニ於テハ左ノ條項ニ依リ施行スヘシ
- 第二條 運輸事務所長ニ於テ運輸部長ヨリ暴風雨ノ警報ヲ受ケタルトキハ直ニ所管內各驛ヲ警戒ス
- 第三條 驛長ニ於テ運輸部長又ハ運輸事務所長ヨリ警戒ヲ受ケタルトキハ爾後天候ノ模様ニ注意シ必要ト認ムルトキハ左ノ各項ニ依リ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ
一 但本支ノ處置ヲナシタルトキハ直ニ運輸部長並ニ所管運輸事務所長ヘ其概要ヲ報告スヘシ
二 風力強暴ニシテ前途運輸危險ト認ムルトキハ列車ヲ出發ヲ見合せ前途線路異狀ナキコトヲ確メタル後出發セシムル事
- 三 列車ノ車數ヲ可及的減少スル事
- 四 但旅客及貨物客車ヲ減シタルトキハ主要驛ヘ其旨通知スヘシ
- 五 旅客列車ニ貨車後附ヲ爲ササル事
- 六 旅客列車ニ附五十人乘形客車ハ連結セサル事
- 七 二車以上ノ貨物其他巨大ノ物品運搬車ハ連結セサル事
- 八 但至急ヲ要スルモノハ貨物其他巨大ノ物品運搬車ハ連結セサル事
- 九 運輸事務所長ニ於テ運輸部長ヨリ警報ヲ受クルニ先ツ天候不穩ノ徵アルコトヲ知得シタル

トキハ第二條ノ手續ヲ施行スル時同時ニ關係機關主任ニ通知シ其旨直ニ運輸部長ニ報告スヘシ
又運輸部長ニ於テ警戒ヲ受クルニ先テ天候不測ノ致アルコトヲ知得シタルトキハ第三條ニ依リ運輸機關
所置ヲ爲シ其旨直ニ運輸部長並ニ運輸事務所長ニ報告スル時同時ニ必要ト認ムル各機關並ニ關係機
關主任ニ通知スヘシ
第五條 機關主任ニ於テ運輸部長ヨリ暴風雨ノ警戒ヲ受ケタルトキハ又運輸事務所長或ハ運輸部長ノ
通知ヲ受ケタルトキハ其旨直ニ運輸部長ニ通過スヘシ
但運輸事務所長又ハ運輸部長ノ通知ヲ受ケタルトキハ其旨直ニ運輸部長ニ報告スヘシ
第六條 運輸部長ハ各列車ノ車長及機關方ニ暴風雨ノ警戒ヲ受ケタル旨直ニ運輸部長ニ報告スヘシ
第七條 車長及機關方ニ於テ警戒ヲ告知ヲ受ケタルトキハ運輸中必要ノ場合ニ於テ適當ノ處置ヲ講
ラサル事ニ注意スヘシ
第八條 暴風雨警戒電報ニハ左ノ略號ヲ用フヘシ
第一、暴風雨警戒電報
第二、暴風雨警戒電報
第三、暴風雨警戒電報
第四、暴風雨警戒電報
第五、暴風雨警戒電報
第六、暴風雨警戒電報
第七、暴風雨警戒電報
第八、暴風雨警戒電報
第九、暴風雨警戒電報
第十、暴風雨警戒電報
第十一、暴風雨警戒電報
第十二、暴風雨警戒電報
第十三、暴風雨警戒電報
第十四、暴風雨警戒電報
第十五、暴風雨警戒電報
第十六、暴風雨警戒電報
第十七、暴風雨警戒電報
第十八、暴風雨警戒電報
第十九、暴風雨警戒電報
第二十、暴風雨警戒電報
第二十一、暴風雨警戒電報
第二十二、暴風雨警戒電報
第二十三、暴風雨警戒電報
第二十四、暴風雨警戒電報
第二十五、暴風雨警戒電報
第二十六、暴風雨警戒電報
第二十七、暴風雨警戒電報
第二十八、暴風雨警戒電報
第二十九、暴風雨警戒電報
第三十、暴風雨警戒電報
第三十一、暴風雨警戒電報
第三十二、暴風雨警戒電報
第三十三、暴風雨警戒電報
第三十四、暴風雨警戒電報
第三十五、暴風雨警戒電報
第三十六、暴風雨警戒電報
第三十七、暴風雨警戒電報
第三十八、暴風雨警戒電報
第三十九、暴風雨警戒電報
第四十、暴風雨警戒電報
第四十一、暴風雨警戒電報
第四十二、暴風雨警戒電報
第四十三、暴風雨警戒電報
第四十四、暴風雨警戒電報
第四十五、暴風雨警戒電報
第四十六、暴風雨警戒電報
第四十七、暴風雨警戒電報
第四十八、暴風雨警戒電報
第四十九、暴風雨警戒電報
第五十、暴風雨警戒電報
第五十一、暴風雨警戒電報
第五十二、暴風雨警戒電報
第五十三、暴風雨警戒電報
第五十四、暴風雨警戒電報
第五十五、暴風雨警戒電報
第五十六、暴風雨警戒電報
第五十七、暴風雨警戒電報
第五十八、暴風雨警戒電報
第五十九、暴風雨警戒電報
第六十、暴風雨警戒電報
第六十一、暴風雨警戒電報
第六十二、暴風雨警戒電報
第六十三、暴風雨警戒電報
第六十四、暴風雨警戒電報
第六十五、暴風雨警戒電報
第六十六、暴風雨警戒電報
第六十七、暴風雨警戒電報
第六十八、暴風雨警戒電報
第六十九、暴風雨警戒電報
第七十、暴風雨警戒電報
第七十一、暴風雨警戒電報
第七十二、暴風雨警戒電報
第七十三、暴風雨警戒電報
第七十四、暴風雨警戒電報
第七十五、暴風雨警戒電報
第七十六、暴風雨警戒電報
第七十七、暴風雨警戒電報
第七十八、暴風雨警戒電報
第七十九、暴風雨警戒電報
第八十、暴風雨警戒電報
第八十一、暴風雨警戒電報
第八十二、暴風雨警戒電報
第八十三、暴風雨警戒電報
第八十四、暴風雨警戒電報
第八十五、暴風雨警戒電報
第八十六、暴風雨警戒電報
第八十七、暴風雨警戒電報
第八十八、暴風雨警戒電報
第八十九、暴風雨警戒電報
第九十、暴風雨警戒電報
第九十一、暴風雨警戒電報
第九十二、暴風雨警戒電報
第九十三、暴風雨警戒電報
第九十四、暴風雨警戒電報
第九十五、暴風雨警戒電報
第九十六、暴風雨警戒電報
第九十七、暴風雨警戒電報
第九十八、暴風雨警戒電報
第九十九、暴風雨警戒電報
第一百、暴風雨警戒電報

清國事變ニ關スル一時賜金交付方ニ付質問書
右成規ニ據リ提出候也
明治三十四年十二月二十六日
提出者 望月 長夫

贊成者 關直彦
外三十名

第一 清國事變ニ關スル一時賜金交付方ニ付質問主意書
時賜金ヲ受給者ニ交附スル五十圓以上ノ金額ニ五分利附公債證書ヲ以テ
ハ財政上ノ都合ニ出テタル處置ナリヤ或ハ受給者ノ便宜ヲ圖リタル處置
ナリヤ

第二 右公債證書額面交附ハ財政上ノ都合ニ出テタルトモ其都合トハ單
ニ預金部所有ノ過剩公債ヲ受給者ニ交附シテ新公債應募資金ヲ作ルノ便
ニ供スルノ意味ナリヤ又ハ同時ニ政府ノ歳出ヲ省減スルノ趣旨ナリヤ前
段ノ意味ナリトモハ交附公債ヲ計算スルニ時價ヲ以テセシメテ額面ヲ以
テスルハ何故ナリヤ又後段ノ趣旨ナリトモハ今日迄ニ國庫ニ幾何ノ差益
ヲ生シ又今後恩賞結了マテニ幾何ノ差益ヲ生スル見込ナリヤ

第三 右公債證書額面交付ハ受給者ノ便宜ヲ圖リタル處置ナリトモハ明治
二十八年勅令第三百七十七號ノ規定準用ノ許シタル本年勅令第五百四十四號
ヲ適用シ得ヘキモ政府ハ果シテ時價ノ額面ヨリモ低落セル五分公債ノ額
面交附ヲ以テ受給者ノ便宜ト認ムルモ若シ之ヲ受給者ノ便宜ト認ムル
ニ於テハ右ノ勅令ハ適用ス可カラサルモ之ヲ信ス政府ハ如何ナル理由ニ
因リテ受給者ノ賜金ヲ事實上ニ削減スルヲ以テ受給者ノ便宜ナリト認メ
タリヤ

第四 公債證書額面交附ハ財政上ニ多少ノ便益アリトスルモ又ハ勅令ニ何
等ノ規定アリトスルモ政府ハ其便益ヲ棄テ勅令ヲ改メテ現金交付ノ手段
ヲ取リ恩賞ノ大主意ヲ全ウスルノ必要ヲ認メサリシカ
右及質問候也
清國事變ニ關スル一時賜金交付方ニ付質問理由書
政府ハ明治三十三年清國事變ニ關シ出征軍人其他ノ功勞者ニ賜フ一時賜金
ヲ受給者ニ交附スルニ五十圓以上ノ金額ハ現金ヲ以テセシメ五分利付公

債證書ヲ以テシ而カモ該公債證書ハ時價ヲ以テセシメ額面ヲ以テ交附ス
ルノ方針ヲ取リ既ニ交附ノ手續ニ及ビタルモノ少カラスト云フ此事實ニ對
シ本員等ノ了解ニ苦ミ所ヲ擧ゲテ本質問書ヲ提出スルニ當リ更ラニ本質問
書ノ盡分ナル所ヲ補記シテ提出ノ理由ヲ明ニセシム
目下五分利付公債證書ノ時價ト現金トノ間ニ百圓ニ付キ十圓以上ノ差異ア
ルハ政府ノ明ニ認ムル所ナルヘシ然レニ政府ハ一方ニ此差異アルヲ認メナ
カラ他ノ一方ニ於テ一時賜金ノ受給者ニ對シ其差異ヲ無視シテ低價ノ公債
證書ヲ額面ニ交附シテ給付シ得ルノ金額ヲ實際ニ削減スルト同様に處置ヲ演
ズルハ普通ノ條理ヲ以テ了解ス可カラサル所ニシテ何等カ特別ノ理由ナカ
ル可カラス思フニ政府ハ財政ノ運用上現金ヲ支出スルヨリモ寧ロ其現金ヲ
以テ預金部所有ノ過剩公債ヲ買入レテ預金部ノ新公債應募資金ヲ作ルヲ
得策ト思考シタルモノナラン此理由一顧ノ價值ナキニ非ス若シモ公債證書
ヲ受給者ニ交附スルニ時價ヲ以テスル次第ナランニハ假令受給者中ニ尙ホ
公債買却ノ手續ヲ厭フテ其現金交附ノ便利ヲ望ムモノアリトスルモ其邊
ノ不便ハ姑ク公同ノ財政運用上ノ都合ノ爲メニ犧牲ニスルモ差支ナカ
ル可シ本員等ノ敢テ是認セント欲スル所ナレトモ苟モ低價ノ公債證書ヲ額
面ニ交附シ受給者ニ交附スルニ現ニ百圓ニ付キ十圓以上ノ損害ヲ受給者ニ蒙ラシム
ルカ如キ一國ノ政府タルモノカ單ニ財政運用ノ都合ヲ理由トシテ爲スラシム
フ可キ事柄ト認ムルヲ得ス或ハ公債證書額面交附ヲ見合ヘテ現金ヲ交附
スルトキハ政府ノ支出ハ多少増加スルヲ免カレシメ政府ハ其増加ヲ避クルモ
財政運用ノ心得トシテ缺ク可カラサル緊要事ト認メタル次第ナラント雖モ
果シテ然ラハ政府ハ公債證書額面交附ノ方針ヲ取ルカ爲メニ現金交附ノ方
針ヲ取ルニ比シテ支出ヲ省減シ得ル金額ハ幾許ノ見積ナリヤ
世上或ハ政府ハ今同ノ一時賜金受給者ニ對シ公債證書ヲ額面ニ交附スル
ハ本年勅令第三百七十四號ニ據リ處置ニシテ該勅令ハ賜金辭令ノ普通ノ金額
發布セラレテ既ニ效力ヲ生シタルモノナレハ賜金辭令ノ金額ノ普通ノ金額
ト異ナルノ一事ハ該勅令ノ結果トシテ受給者カ賜金辭令ヲ受ケタル當初ヨ
リ覺悟セサル可カラサル所ナリトモ說ヲ爲スモノアレトモ元來該勅令ハ明
治二十八年勅令第三百七十七號即チ「二十七年八月ノ戰役ニ關シ賜金一時賜
軍事公債證書ヲ以テ交附ノ件」ニ關スル規定ヲ「清國事變ニ關シ賜金一時賜
金ニ準用」スルニ規定シ外ナラス而シテ二十八年勅令第三百七十七號ノ明文ヲ
見レハ「明治二十七年八月ノ戰役ニ關シ」ニ關シ「二十八年勅令第三百七十七號」
シテ現金ノ代リニ公債證書ヲ交附シ而モ其計算ニハ時價ヲ用ヒシメ額面
ヲ用フルノ權能ヲ政府ニ賦與シタルモノナルコト勿論ナリト雖トモ其文中
ニハ「受給者ノ便宜ヲ圖リ」ノ一句アルヲ以テ其適用ハ無制限ナルヲ得ス單
ニ受給者カ公債證書額面交附ヲ便宜トスル場合ニ限リテ之ヲ適用シ得ルノ
ミ然ルニ實際ニ受給者カ公債證書額面交附ヲ便宜トスルハ公債ノ時價額
面以上ニ在ル場合ノミナルカ故ニ政府ハ正當ニ右ノ勅令ニ據リテ公債證書
額面交附ノ權能ヲ使用シ得ル場合モ亦公債時價ノ額面以上ニ位スル時價ノ
範圍外ニ出ツルヲ得ス即チ右ノ勅令カ政府ニ賦與シタル公債證書額面交附
ノ權能ハ多少ノ國庫金ヲ損シテ受給者ノ便宜ヲ圖ルコトヲ得ルノ權能ニシ
テ受給者ニ損害ヲ公債ノ時價額面以上ニ在リ政府カ其權能ヲ使用スルノ餘
地ヲ存セタルト雖モ今ヤ公債ノ時價額面以上ニ在リ政府カ其權能ヲ使用スルノ餘
交附セラル、受給者ハ現金交附ヲ受クルニ比シテ百圓ニ付キ十圓以上ノ損

闇デゴザイマス、賄賂デモ取レバドウデモ宜イト云フヤウナコトニ至ッテハ、
黒闇デゴザイマス、何故ニ日本ノ法律ヲ日本ノ政府ガ實行スルコトニ出テハ、
イカ、亂暴極テ居ルノニ於テ、行政上ノ處分ト云フト、例ヘバ私設鐵道條例
ノ第四十條ニ「鐵道會社ニ於テ條例ニ違反シタルコトハ役員ヲ改選セシムル
トアル、然ルニ屢之ヲ破ツテモ一度モ改選シタルコトハない、斯様ナ有様デ
アッテハ、到底生命モ財產モ彼等ニ蹂躪サレテシマフノデアアルカラ、此類末ヲ
開キタイト思フノデアアル、政府ハ速ニ此答辯アラソコトヲ望ミマス、次ニハ
日本鐵道ノ火附人殺ト題スル質問デゴザイマスガ、是モ日本鐵道株式會社ハ
特別條例ニ依ッテ建設シ、爾來私設鐵道條例其他諸般ノ條例ヲ遵守シテ、過失
ガナシト稱シテ居ルガ、二十二年一月カラ二十三年一月ニ至ル全國鐵道事變
取調ト云フモノヲ、逡巡省カラ取ッテ見マス、日本全國ノ鐵道ト日本鐵道ノ
事變ヲ比較スルト、何十倍ニモ日本鐵道ノハナッテ居リマス、例ヘバ政府ノ
鐵道ト比較スルト、斯様ナ有様デアリマス、官設鐵道ハ八百九哩、是ハ三十二
年ノ調テアリマスガ、日本鐵道ハ矢張八百五十幾哩ト云フノデ、稍同シデア
リマスガ、統計ニ據ッテ見マス、官設鐵道ノ失火ハ僅ニ一回デアアル、然
ルニ日本鐵道ハ三十七回ナノデアアル、官設鐵道ノ失火ハ僅ニ一回デアアル、然
線ハ百零六回ナノデアアル、官設鐵道ノ失火ハ僅ニ一回デアアル、然
道ハ三回ナノデアアル、又官設鐵道ノ失火ハ僅ニ一回デアアル、然
本鐵道ノ失火ハ二百二十六人デ九十人モ、又官設鐵道ノ失火ハ僅ニ一回デアアル、然
ル死亡者ハゴザイマセガ、日本鐵道デハ之ガタメニ死亡シタル者ガ二十八人
ゴザイマス、官設鐵道ノ死亡者ハ百四十七人デゴザイマス、日本鐵道ノ死
亡者ハ二百四十一人ナノデアアル、斯様ニ事件ノ多イ原因ハ何デアアルカ
ト云フト、曾テ明治三十二年ノ特別委員會ニ於テ、政府委員ニ此事變ノ多イ
原因ヲ尋ネタコトガアル、政府委員ハ當時調ベ中ダト答ヘタ、今ヤ殆ド二年
以上ニナルカラ、政府ハ必ズ相當ノ調査ヲ遂ゲテ、是ガ改良ヲ命ジテ居ルコ
トダラウト思ヒマス、ソレ故ニ茲ニ此質問ヲ出シタノデアアル、又此失火
ニ附イテハ如何ナル損害ヲ人民ニ與ヘテ居ルカト思ウテ、嘗テ宮城縣ノ刈田
郡越河村役場ニ問合シタ所ガ、其村長カラ斯様ナ調書ガ參ッテ居リマス、越
河村デハ鐵道ノ損害高ハ七万五千五百圓、燒失セラレタ棟數ガ總計百八
十棟デアアル、此損害高ハ七万五千五百圓、燒失セラレタ棟數ガ總計百八
會社カラ見舞シテ出シタルガ九千六百圓デアアル、斯ウ云フ調ガ參ッテ居ル、
ソレカラ福島縣ノ伊達郡藤田村役場ニ就イテ調ベタ所ガ、事變ハ明治二十八
年カラシテ十回程失火致シタ、其損害高ハ五千三百圓デアアル、會社ヨリシテ
見舞シテ出シタルハ五百九十圓デアアルト云フ、斯ウ云フ回答デゴザイマス、
斯ノ如ク多クノ損害ヲ會社ハ人民ニ與ヘテ居ルノデアアル、是等ニ對シ
テモ政府ハ如何ナル取締ヲ爲シテ居ルカ、一向爲サナイノデアアルト聞イテ居
ル、既ニ此一二箇村ニ附イテモ、八万以上ニナッテ居ルカラ、青森カラ東京ニ
達スル間トカ、或ハ宮城縣ノ岩沼カラ水戸ヲ經テ小山ニ達スル間トカ、宇都
宮ヨリ日光ニ至ル間トカ、其他ノ日本鐵道ニ關聯スル所ノ數百箇村ノ人民
ガ、如何ナル損害ヲ與ヘラレテ居ルデアリマス、能ク調ベレバ毎年失火
ニ附イテモ、六七十万圓ノ損害ヲ與ヘテ居ルト思ヒマス、政府ハ是等ニ對シ
テドウ云フ取調ヲシ、ドウ云フ處分ヲ爲シテ居ルノデアアル、ゴザイマセウカ、此事
ニ對シテモ詳シク答辯ヲ得タイト思フノデアアル、尙ホ越河村長山田誠
一、藤田村長松浦市十郎カラ參ッテ居ル調書ヲ、一々朗讀スルト長クナリマ
スカラ、參考ノタメニ速記録ニ載セテ戴キタイト思ヒマス、以上申上ゲマシ

タ事實デゴザイマスカラ、政府ハ宜シク之ニ對シテ答辯アラソコトヲ希望致
シマス

(參照)

拜啓時下寒氣相催候處、御多幸實候、但過般御照會ニ相成候當村越河縣鐵道失火ノ損害高等取調ノ
義甚遲延致シ、御申渡無之候、御別紙ノ通ニ御座候ハハ御査取被下度、尙爲國家此上ノ御盡力不堪、莫望
候、敬具
明治三十四年十一月廿一日
越河村長 山田 誠一 印

宮城縣刈田郡越河村
佐藤伊四郎外二十六名

明治二十六年七月二十八日
燒失戸數二十七戶
燒失損害金一百五十七圓(土藏共)
燒失損害金一百五十七圓(土藏共)
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金二千五百圓

明治二十九年五月二十六日
燒失戸數三十七戶
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
燒失損害金六十六萬三千七百七拾圓八拾參錢五厘
日本鐵道會社ヨリ受ケタル見舞金七千圓

全燒
此損害金千圓

日鐵會社ヨリ見舞金トシテ金七十圓渡サル

明治三十年三月三日午前十一時

右居室屋根ニ燒付屋根半燒ニシテ漸ク消止ム同所危險ナルヲ以テ直ニ他ニ移轉ス
佐々木喜惣治

明治三十年三月二十五日午後三時

學園見山松林段別八段歩
此損害金六十圓
日鐵會社ヨリ手當ナシ
佐藤 卯彌太

明治三十年五月十八日午後三時

全燒
此損害金一千二百圓
日鐵會社ヨリ見舞金四百圓ナリ
石母田分教室

明治三十年十一月十五日午後六時

右物置屋根ニ燒付タルモ直ニ消止ム
此損害金五十圓
日鐵會社ヨリ手當ナシ
齋藤 倉次

明治三十四年十一月十九日午後零時

右居室屋根ニ燒付屋根半燒ニシテ漸ク消止ム爲メ木八他ニ移住ス
此損害金五百圓
日鐵會社ヨリ手當ナシ
佐々木 甚助

望月長夫君(二百四十二番) 議長

議長(片岡健吉君) 望月長夫君

望月長夫君演壇ニ登ル

○望月長夫君(二百四十二番) 私ハ今日清國事變ニ關スル一時賜金ノ交付方ニ就キマシテ、四箇條ノ質問ヲ提出シテ置キマシタ、是ニハ詳細ナル理由由書ヲ添ヘテ送キマシタカラ、理由書ト重複ニナル事柄ハ述べナイ積デ、理由書ニ漏レテ居ッテ、理由書ニ意義ノ明瞭ニナッテ居ナイ所ダケヲ茲ニ述ベマシデ、政府ノ參考ニ供シテ、政府ヨリ確實ナル答辯ヲ得ルガタメニ、其必要ノ點ダケヲ極デ簡單ニ述ベヤウト思ヒマス、第一ニ質問致シマシタノハ、政府ハ明治三十三年ノ清國事變ニ關シテ、出征軍人其他功勞ノアツタ人ニ賜ウタ所ノ一時賜金ヲ、受給者ニ渡スニハ五十圓以上ノ金額ニ附イテハ、五分利付ノ公債證券ヲ額面ヲ以テ交付スル方針ヲ、即チ公債ヲ額面ヲ渡ス方針ヲ執ッテ、既ニ之ヲ實行セラレタ分モ少クナイト云フコトヲ聞イテ居ル、是ハ唯聞イテ居ルバカリデハナイ、殆ド證明ヲ要セザル確實ノ事實デ、政府モ此事實ハ非認セラレナイと思フ、此事ニ附イテハ御承知モゴザイマセウガ、本年ノ勅令第百五十四號ニ依リマシテ、此明治三十三年ノ清國事變ニ關スル一時賜金ハ、明治二十八年ノ勅令第百三十七號ヲ準用スルコトガ出來ルト云フ勅令ハ出テ居ルノデ、ツレカラ其明治二十八年ノ勅令ハドウ云フコトガ書イテアルカト云フト、即チ斯ウ云フコトガ書イテアル一明治二十七年ノ戰役ニ關シ賜フ

一時賜金ハ受給者ノ便宜ヲ圖リ、此「受給者ノ便宜ヲ圖リ」ト云フ字ハ、餘程必要ナラザアルト思フ、即チ貰フモノ、便宜ヲ圖リシテ云フ文字ヲ受給者ノ便宜ヲ圖リ軍事公債證券額面ヲ以テ交付スルコトヲ得其公債證券ノ購入ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシム但シ五十圓未滿ノ端數ハ此限ニアラス、即チ今度ノ清國事變ニ就イテ一時賜金ニモ、此二十八年ノ勅令ヲ準用スルヲ若シモ二十八年ノ勅令ニ依リ、即チ此通ノ規定ハアルノデゴザイマス、サリナガラモ二八ノ勅令ニ依リ、公債ノ額面ト實價ガ相平均シ、或ハ公債ノ方ガ寧ろ高イト云フガ如キ場合ニ、此公債ヲ以テ交付スルコト云フコトガ、受給者ノ便宜デアルト云フコトハ、誰ニモ理會シ得ル事柄デアアル、貰フ者ノ便利デアラウト云フコトハ、誰ニモ理會シ得ル事柄デアアル、少モ疑ハ起ラナイケレドモ、今日ハ其時トハ全ク其勢ヲ異ニシテ、現ニ百圓ノ額面ノ公債ガ八十圓乃至九十圓以下デアルト云フコトハ、爭フコトノ出來ナイ事柄デアアル、即チ額面ヨリハ一割乃至二割低キ實價シカ持タナイモノデアルト云フコトハ、爭ハレナイ事實デアアル、是ニ於テ第一ニ私ハ疑ガ起リマスルノハ、此場合ニ於テモ矢張此公債ヲ交付スルコトガ、受給者ノ便宜デアルト云フコトデ、政府ハ之ヲ渡スノデアアラウカ、ドウモ此理由ダケデハ充分ニ了解ガ出來マセヌガ、若シサウデナイトスルナラバ、財政上ノ都合ト云フコトノ外アルマイト思フ、第一ニ私ノ尋ネマスルノハ、斯ノ如クニ公債ノ額面ト實價トノ相違スル場合ニ、實物ヲ渡スニ代ヘテ公債ヲ渡スノハ、即チ矢張受給者ノ便宜ヲ圖ルノデアアルカ、將又財政ノ都合デアアルカ、其ドチラデアアルカト云フコトヲ、政府ニ聞キタイノデアアル、政府ハ其ドチラデアアルカト云フコトヲ、明瞭ナ答ヲ與ヘラレニコトヲ望ムノデアアル、第二ニ起ル問題ハ、先ヅ此財政上ノ都合ト云フコトヲ片附ケテシマハウト思フ、第二ニ質問致スルノハ、財政上ノ都合ト云フ事柄デアアル、其都合ナルモノヲ推測致シテ見マスルノハ、所謂財政上ノ遺線ノ必要、今日預金部ニ公債ガ多過ギテ、預金部ニ公債ガキツリ詰ッテ居ッテ、サウシテ之ヲ賣捌クコトガ出來ズ、從ッテ新公債ノ應募資金ガナイト云フ事實ハ明白ナ事實デアアルガ、此遺線リヲ付ケルガタメニ、即チ預金部ニアル公債ヲ現金ノ代リニ出シテ、現金ノ方ヲ餘シテ新公債ノ應募資金ヲ造ル、斯ウ云フ遺線リデアアルト考ヘテ見マスレハ、此遺線リナルモノモ或ハ宜イコトトハ考ヘヌケレドモ、政府ノ財政ノ目下ノ現狀カラ考ヘテ見ルト、已ムヲ得ナイ餘儀ナイト云フヤウナ、容赦ラスルコトガ出來ルカモ知レナイケレドモ、左様ニ容赦ヲ致スニハ、何故ニ公債ヲ額面ヲ以テセズシテ、實價ヲ以テ交付シナイカ、九十五圓ヨリシテ何故ニ九十五圓、八十五圓ヨリシテ何故ニ八十五圓ヲ以テ渡サナイノデアアル、殊ニ二十八年ノ法律ニ據ルト、其渡ス公債ノ購入ハ、日本銀行ニ之ヲ買ハセルト云フコトニ書イテアル、日本銀行ガ今日公債ヲ買フニ、果シテ百圓ノ額面ノモノヲ百圓デ買ヒマセウカ、預金部ニ在ルモノヲ政府ガ他ヘ賣ルニ、果シテ百圓ノモノヲ百圓デ賣ルコトガ出來マセウカ、サウ云フコトノナイコトハ極デ明白デアアル、政府ハ單ニ遺線リヲ附ケルト云フダケノ事柄デアアルナラバ、即チ實價ヲ渡スガ當然デアアルノニ、ツレニ安イコトノ分リ切ッテ居ル公債ヲ、額面ヲ渡スト云フノハ、此單純ナル遺線リト云フ趣旨ニ合ハヌデハナイカ、斯ウ云フコトガ一つ、ツレカラ若モデゴザイマス、是ハ遺線デハナイ、實ハ政府ノ歳費ヲ少クシタイノデアアル、減ジタイノデアアルト云フコトデアアルナラバ、此名ヲ美ニシテ即チ千圓ノ賜フト云フ名ハ極デ立派デアアルガ、事實ニ於テ八十五圓ヨリシテ千圓ハ八百五十圓ノモノヲ吳レト云フ事柄、惡ルイ善イト云フコトハ更ニ第二ニ至ッテ詳シク述べヤウト思ヒマスガ、兎ニ角政府ガサウ云フ苦シイコトヲシテ、サウ

レテ蔵出ヲ制限セヤウ、錢ヲ儲ケヤウ差金ヲ儲ケヤウト云フナラバ、全體政府ハ今日マデニ幾ラ之ガタメニ儲ケ得タカ、今後結了マデニ幾ラ儲ケル積リデアルカ、即チ總テニ於テ政府ハ財政上、賞與金ヲ公債テ交付スルガタメニ幾ラ儲ケ積リテ、斯ウ云フコトヲ爲スルノ必要アルカ、是ガ即チ第二ノ質問ノ趣旨デ、此第二ノ質問ハ如何ニ政府ヲ安ク見クビツテモ、マサカ此第二ノ質問ノ趣旨ナコトガ今日アルトハ、御答辯ナサルコトハ出來マイト思フ、サウスルノ失張初ニ述ベマシタ、受給者ノ便宜ヲ圖リ矢張賞與者ノ便宜ヲ圖ルノ事アルト云フヨリ、外ニ拔道ハナク、サリナガラハ是ハ前ニ述ベマシタ通り、公債ト賣買價格トガ相平均スルカ、ソレ以上デアル場合ニハ、賞與者ノ便宜御前ノ方ハ三ツ貫ツタ方ガ便宜デアルカラト云フコトヲ云フノハ、少シモ理解シ難イコトハナク、今日ノ如クニ其差ノ甚シキ場合ニハ、矢張額面ヲ以テ公債ヲ渡スト云フコトハ、是ガ如何ニシテ受給者ノ便宜デアルト云フコトヲ、理解シ得ラレヤウカ、或ハ金ヲ渡スト云フコト、直グニ使ツテ、恩賜金ヲ長ク保存シテ其光榮ヲ永ク戴カシムルタメニ、態々消費シ惡イ公債證書ヲ渡ストナル、斯ウ云フヤウナ辯解モ附クカモ知レナイケレドモ、固ヨリ小兒ヲ對シニシタ仕事デハナイ、立派ニ軍人トシテ世ニ立チ事ニ當ツテ往クコトノ出來ル人ニ對シテ交付スル事柄デアル、今日何處ノ國ヘ往ツテテ、僅ナ千圓ヤ二千圓ノ多クテ千圓二千圓、少ケレバ五十圓ヤコトノ公債證書ガ、何時デモ買得ナイト云フ話ハナイ、買ハウト思フハ即チ貯蓄心ノアルモノナラバ、何時デモ買ヘル、百圓貫ツタ金デ公債證書ヲ百圓貫ツテ、尙ホ十五圓ノ餘裕ガアル、又使ヒタイモノナラバ、既ニ前カラ使ツテ居ルト云フヤウナモノナラバ、公債證書ヲ買ツテ決シテ自分ノ懷中ニハナイノデアル、斯様ナ理窟ハ理窟ニナラナイ、唯茲ニ矢張受給者ノ便宜デアルト云フコトヲ云フニ、政府ハ斯ウ云フ一ノ抜ケ道ヲ持ツテ居ラレドウト思フ、是ハ理由書ニ書イテナイカラ、私ハ特ニソレハ知ラズニ言ハヌデ居ルデハナイト云フコトヲ言ハウト思フ、明治二十八年ノ勅令ニ附帶シタ、陸軍省令及海軍省令ニ、若シ賞與モノガ公債證書ヲ現金ニ換ヘテ欲シト云フ場合ニハ、直グニ換ヘテ呉レト云フコトヲ申出ルコトガ出來ル、但シ當日限デアル、其日ニ直グ引換ヘテ呉レト云フコトヲ言フハ引換ヘテヤルデアル、斯ウ云フ規定ガアルノデアル、ソレデ政府ノ側ハモダッタ理由ヲ云フト、政府ハ受給者ノ便宜ト思フテ公債證書ヲ交付シテ居ル、受給者モ亦之ヲ便宜トシテ居ル證據ニハ、今日マデ唯ノ一人モ引換言ツテ來タ者ハナイ、受給者ガ之ヲ賞與テ貰ツテ居ル以上ハ、受給者ノ便宜ト認メ得ルノデアル、斯ウ云フヤウナ理由ヲ言ハレルカモ知レナイケレドモ、是ハ實ニ三百代言ト雖モ、モグリト雖モ言フハ耻ヅル理窟デアル、相手ハ何デアルカ、最モ清廉潔白ナラザルベカラザル、最モ高尚ナル士氣ヲ持タネバナラヌ軍人デアル、財欲利欲ニ掛ケテハ最モ口ニスルダモ恥ヅル資格ヲ備ヘテ居ル軍人デアル、軍人デナイ者デモ少クモ愛國ト云フ精神ニ驅ラレテ、己ノ身命ヲ賭シテ國家ニ忠節ヲ盡シテ功績ヲ舉グタ人間デアル、殊ニ斯ウ云フ人間ニ對シテ下サル金ハドウ云フ性質ノ金デアルカト云フト、即チ恩賞金デアル、御褒美ニ此金ヲ賜ルト云フ金デアガ往クカラ、現金ニ引換ヘテ與レト云フコトヲ云フカモ知レナイケレドモ、此軍人ガ、少クモ軍人ト功勞ヲ共ニシタ志士ガ、此恩賞金ニ對シテ左様ナコトガ言ハレマセウカ、若シ言フ者アリトセバ、日本ハ既ニ亡國デアル、軍人ノ氣節志士ノ氣節ガ左程マデ下ツテレマセバ、日本ハ既ニ亡國デア、サウ云フコトハナイ、サウ云フコトハ言ヘナイト云フコトヲ知リツ、

政府ガ即チ先ノ言ヒ得ナイコトニ附込シテ、斯ノ如キコトヲ致シタ致シマスレバ、政府ハ此忠勇無雙ナル軍人志士ニ對スル恩賞ノ道ヲ盡シタモノト見ラレ得マセウカ、是ハ政府ガ若モ左様ナ理由ヲ以テ答辯ヲ與ヘルナラバ、是ハ志士ニ對シテ、軍人ニ對シテ、政府ハ非常ナル侮辱ヲ加ヘルモノデアル、無闇ニ之ヲ輕蔑シタ話デアル(備ハレタノダラウ)ト呼フ者アリ)若シ備ハレタト私ガ致シタ話デアル、斯様ナコトハ賴ナラナイデモ努メナケレバナラヌ事柄ダ、左様ナコトヲ言フ人ガ、既ニ議員ノ中ニ出來テ居ルト云フコトガ、甚ダ私ハ遺憾ナノデアル、ソレデ要スルニゴワス、政府ハドウシテ此コトヲ云フ理由ヲ受給者ノ賞與ノ賜金ヲ、事實ノ上ニ減ズル、千圓ヤラウト言テ八百五十圓ノモノシカス、斯ウ云フ事實ノ上ニ減ズルト云フヤリ方ヲ、受給者ノ便宜ト解釋セラレタガ、是ガ受給者ノ方ノ便宜デアルトハ、ドウシテ解釋セラレタ、即チ政府ガ受給者ノ便宜デアルト認メラレタ理由ヲ詳シク御答辯願ヒタイノデアル、第四即チ是ガ最終ノ質問デアルガ、假ニ此處分ガ財政上ニ都合好シトシ、又今日マデ規定セラレテ居ル勅令省令等ニ依テ政府ハ斯様ナ處置ヲ爲シ得ル途ハアツタシテモ、此清國事變即チ空前絶後ノ絶後ト云フ言葉ニハ或ハ弊ガアルカモ知レナイガ、空前ノ大戰功ヲ立テタルモノニ對スル恩賞トシテ、此些ケタル財政上ノ便宜ヲ捨テ、或ハ己ニ便ナル規定アリトモ、之ヲ適用セズシテ、之ニ對スル即チ斯ノ如キ忠勇無雙ナル軍人其他ノ人ニ對スル恩賞ノ大趣旨ヲ完ウスル必要ガアルト云フコトニ、政府ハ御心付ガナカッタカドウデアルカ、成程三十二年ノ戰役ハ二十七八年ノ戰役ニ比較シテ、戰ト云フコトノ分量程度ヲ比較シテ見タラ、小サカッタカモ知レナイケレドモ、二十七八年ノ戰役ハ唯日本ガ支那ニ對スルダケノ戰爭デアル、東洋ト東洋ダケノ戰爭デアル、局外者ヲシテ言ハシムレバ、或ハ日本ガ強カッタヨリモ、支那ガ弱カッタト云フヤウナ疑ヲ挾ミ得タカモ知レヌケレドモ、今度ノ戰爭ハ列國ト事ヲ共ニシテ、即チ強兵ヲ以テ誇ル所ノ歐米諸國ヨリモ、尙ホ規矩ニ於テ非常ナル功績ヲ顯シ、文明ヲ以テ世界ニ誇ル所ノ歐米諸國ヨリモ、尙ホ規矩ニ於テ非常ナル功績ヲ顯シ、文明ヲ以テ世界ニ誇ル所ノ歐米諸國ハ十分ニ之ニ酬フ方法ヲ全クシ、少デモ軍人其他ノ人ノ感觸ヲ害スルヤウナコトナクシテ、十分ニ恩賞ノ趣旨ヲ全ウスルコトノ必要ト云フコトニ、御心付ガナカッタカドウデアルカ、是ガ私ガ最後ニ御尋ヲ致シタイ事柄デアル、之ヲ要スルニデゴワス、此事柄ノ事柄ハ小サイヤウデアルケレドモ、其關係ハ重大ナ事柄デアル、政府ガ軍國ノ政ニ如何ナル注意ヲ致シテ居ルカ、軍國ノコトニ心ヲ用フル程度ガ、ドウヤウナモノデアルカト云フコトヲ、知ル測量ノ尺度ニナルト私ハ考ヘル、昔カラ戰ニハ都合好ク勝ツタ、禍ハ都合好ク定メタガ、後ノ恩賞ノ方法ガ其途ヲ誤リタル例ノ少ニ、再ビ禍亂ノ端ヲ開イタスベキ事柄デアル、各國ノ歴史ニ於テ決シテ其例ノ少ニ、再ビ禍亂ノ端ヲ開イタスベキ事柄デアル、私ハ今ノ忠勇無雙ナル日本ノ軍人ニ對シ、現今ノ忠勇無雙ナル日本ノ海陸軍人ニ對シ、斯ノ如キ危險ハ挾マナイノデアル、サリナガラ政府ノ如キヤリ方ハ、即チ爲政者ノ心ヲ用フル方法トシテ、爲政者ノ良心ノ心ヲ用フル眞實ノ方面カラ考ヘテ、誠ニ私ハ其途ヲ誤ツタ、露骨ニ言ヘバ不埒ナ事柄デアルト私ハ信ズルノデアル、斯ノ如キ重大ノ結果ノアル事柄デゴザイマスルガ故ニ、政府ハ例ニ依ツテ輕薄ナル答辯ヲセズシテ、政府ノ誠意ヲアル所ヲ披瀝シ、少モ鄙吝ノ心ヲ以テ致シタ事柄デハナイ、即チ之マデ十分受給者ノ心服ヲ得ラレベキ手段デアルト考ヘテ居ラタト云フナラバ、其誠心誠意ノアル所ヲ明カニセラレンコトヲ、私ハ切ニ希望致スノデアル

○議長(片岡健吉君) 内閣總理大臣桂太郎君

(内閣總理大臣子爵桂太郎君演壇ニ登ル)

○内閣總理大臣(子爵桂太郎君) 諸君、本大臣ハ過日來本院ノ問題ト相成居リマシ、清國債金ノ事ニ關シテ、政府ノ所見ヲ陳述致シテ、併テ諸君ノ御參考ニ供セントスル考ヘマス、抑、清國債金ノ豫算ノ財源以外ニ置キ、特別會計ヲ設定セントスル法案ニ對シテハ、遺憾ナガラ政府ノ同意ヲ表セルコトハ出來マセヌ、諸君ノ清國債金ヲ豫算ノ財源ト爲スニ同意致サレマセヌ所ノ趣意ハ、主トシテ該債金ハ未ダ確定セザルモノト爲スニ在ルガ如シ、曩ニ大藏大臣ヨリ其理由ノアル所ヲ辯明ヲ致シ、又豫算委員會ニ於キマシテ、外務大臣ヨリ右債金ノ確定ニ對シテ、理由ヲ辯明致シマシタニモ拘ラズ、不幸ニシテ未ダ諸君ノ諒認セラレル所ト爲リマセヌノデアリマス、既ニ外務大臣ヨリ説明ヲ致シマシタルガ如ク、清國債金ハ一箇國ノ共同要求ニ對シマシテ、清國ヨリ損害賠償トシテ、四億五千萬兩ノ債券ヲ交付致シマシタ、此債券ハ確定ニ對シテ、個人ノ損害トニ對スル、二種ノ賠償ヨリ成立シテ居リマス、其國家ノ損害ニ對シマスル軍費ノ賠償金額ハ、既ニ確定シテ將來何等ノ異動ヲ來スコトデハゴザリマセヌ、個人ニ對スル賠償額モ目下調査中ニゴザリマシテ、未ダ確定ニハ至リマセヌケレドモ、大抵四億五千萬兩ノ範圍ノ内ニ於キマシテ、仕拂ヒ得ベキ見込ミデゴザリマス、萬一此金額ノ範圍以外ニ出デマシテ、按分比例ニ依ッテ各國ニ分配セラル、事ト致シマスルモ、是ハ個人ノ賠償額ニ對シマシテ、減少ヲ來スコトデゴザリマシテ、既ニ確定致シ居リマス處ノ軍費ノ賠償額ニハ、何等ノ異動ヲ生ズルモノデハゴザリマセヌ、故ニ假ニ按分比例ニ依ッテ削減ヲ受ケルモノト致シマスルモ、其部分ハ個人ノ要求額ニ屬スルモノデゴザリマシテ、從ッテ其金額未ダ確定ニ至リマセヌ、軍費ニ屬スルモノデゴザリマシテ、今回帝國政府ガ受取リマス金額四千七百六十萬圓ノ清國債券ハ、即チ此軍費ノ賠償ニ係リマシテ、確定ニ對シテ、一定ノ支出目的ニ供スルコトヲ得ルモノデゴザリマシマス、右ノ理由ナルニ依ッテ、政府ハ財政ノ基礎ヲ鞏固ニシ其信用ヲ確立スルガためニ、之ヲ財源ニ組入ル、ハ、最モ必要ノコト、信ズルノデゴザリマス

○議長(片岡健吉君) 茲ニ報告ガアリマス

(書記朗讀)

政府ヨリ撤回セラレタル議案左ノ如シ
明治三十五年度歳入歳出總豫算案並明治三十五年度各特別會計歳入歳出豫算案

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件

○島田三郎君(二十七番) 質問ガアリマス、總理大臣ハ先日來他ノ大臣ガ繰返サレテ申サレタルコトヲ、今日再び繰返サレタノデ、別ニ新シイ理由モ何モナイノデゴザリマス、議院ヲ玩弄セラルル政府デナケレバ、何故ニ理由ナク審査ヲ殆ド了ッタト本員ハ認メテ居リマシテ、唯今ニモ報告ガアルダラウト思フ其豫算案ヲ、一言ノ斷モナク撤回サレト云フノハ、全體ドウ云フ理由デアリマス

○政府委員(阪谷芳郎君) 唯今ノ御質問ニ御答ヲ致シテ置キマスガ、少シク訂正ヲ加ヘマスル所モゴザリマシテ、一應撤回ヲ致シマシタ

○島田三郎君(二十七番) 其訂正ヲ加ヘルト言ヒナガラ、既ニ審査十五日ノ期限モ滿タントスル場合ニ、唯故ナク漠然ト訂正スルコト云フノハ、甚ダ議院ヲ輕蔑サレタル處置ト考ヘマス、本員ガ竊ニ「公ケノ手續デハゴザリマセヌガ、世間ノ流傳ニ據リマスルモ、或ハ帝國「ホテル」ニ議院ノ一部ノ團體ト集會ヲセラレ、ワレト私ニ相談ヲ遂ゲラレタ結果、公ケノ議會ニ付セラレタル議案ヲ、一言ノ斷モナク撤回ヲセラレタルコト云フノハ、甚ダ議會ニ於テ許スベカラサル不都合ノ手續デアルト思ヒマスカラ、確カトシタル手續報告セラレンコトヲ望ミマス

○政府委員(阪谷芳郎君) 政府ニ於キマシテハ、此際一應撤回致シマシテ修正ヲ加ヘル必要ガゴザリマス

○島田三郎君(二十七番) 其撤回シテ修正ヲ加ヘル理由ヲ、公然ト本院ニ報告セラレテ、成ル程尤ト云フコトデアレバ宜シイガ、ドウ云フ譯デ撤回スルカ、其理由ヲ承リタイ

○政府委員(阪谷芳郎君) イツレ更ニ又提出致シマス

○島田三郎君(二十七番) イツレ提出セラレ、ト云フコトハ、無論提出シナケレバ政府ノ職務ガ立たヌノデゴザリマス、提出セラレルコトヲ承ルノデナイ、ドウ云フ理由デ、ドウ云フコトヲ訂正スル必要ヲ感ジタカ、ソコヲ承リタイ

○政府委員(阪谷芳郎君) 政府ハ此際……

○島田三郎君(二十七番) 答ガ出來ナケレバ、本員ハ斷然ト茲ニ明言致シマスガ、議院ノ一部ニ政友會ナルモノガアツテ、是ト内閣ノ一部分ノ方ガ或ハ帝國「ホテル」ニ集會シタ結果(「無用々々」ト呼フ者アリ)斯ノ如ク不都合ナル手續ヲ議院ノ上ニ加ヘラレタルモノデアルト、本員ハ認定致シマス、ワレデナケレバ理由ナクシテ、貴重ナル議案ヲ撤回サレルコトハ、ナイ筈デアルト思ヒマス

○花井卓藏君(二百八十三番) 二百八十三番

○議長(片岡健吉君) 花井卓藏君、質問デスカ

○花井卓藏君(二百八十三番) 質問デス

○議長(片岡健吉君) 花井卓藏君

○花井卓藏君(二百八十三番) 私ハ此議院ノ先例ノ上ヨリ、撤回ノ事柄ニ附キマシテ、疑フ懷キマスルガ故ニ質問致シマス、帝國議會ガ開ケマシテヨリ十六回ノ間ニ、豫算ノ全部ト云フモノヲ撤回サレマシタ例ハ、今日マデヨリ一回モゴザリマセヌ(例ハアリマス)ト呼フ者アリ、第十回帝國議會、第十三回帝國議會ニ於キマシテ、豫算ノ全體或ハ追加豫算案ヲ撤回サレタ事例ハゴザリマス、併ナガラ是ハ審査著手以前ノコトデアルト、今回ノ如ク審査ニ著手セラレマシテ報告ヲ致スニ附キマシテハ、僅ニ一日ヲ餘スト云フヤウニマデ程度ノ進デ居ル場合ニ、撤回サレタ事例ト云フモノハ絶無デアルト、全クナイノデアアル(島田三郎君「ヒヤノ」ト呼フ)斯ノ如ク惡例ト云フモノヲ、議院ノ先例ノ上ニ今尚ホ貽サント欲スル場合ニ於キマシテハ、政府ハ其然ル所以ト云フモノヲ、明ニ示サレト云フコトハ、當然デアラウト思フノデアルト、何トナラバ憲法ガ豫算ニ關シテ規定セラレテ居ル所ノ、條項ノ上カラ見マシテモ、亦議院ノ先例ノ上カラ見マシテモ、是ハ新ナル一例ト云フモノガ作ラレラデアリマス上カラス、吾々ノ頭ノ上ニ成ル程尤デアルト云フダケニ、事柄ヲ御説明ニ相成リマシテ、或ハ美シキ美麗ナル判決例トシテ、後ニ貽ルカモ知レナイノデアルト、理由ヲ島田君ガ問ヘバ、理由ハ説明ノ限ニアラズト云フ事柄ニナリマシテハ、無言ニシテ——無言ノ間ニ、沈黙ノ間ニ、議事

ヲ終了スルト云フヤウナコトハ、甚ダ宜クナイト思ヒマス、殊ニ況ヤ之ヲ問
フト云フノハ議員ノ權能デアル、撤回ニ關シテ議事ヲ開クト云フ事柄ハ、憲
法ノ吾々ニ與ヘタル權能デアル、然ルニ之ニ向テ政府ハ何等ノ答辯ヲセヌ
ト云フ事柄ハ、不親切極マルノミナラズ、憲法並ニ先例ヲ蹂躪スルノ甚キモ
ノデアルト、本員ハ、認定セザルヲ得ヌノデアリマス

(「辯明シ給ヘ」ト呼フ者アリ)

○高木正年君(二百五十三番) 二百五十三番

○議長(片岡健吉君) 高木正年君、御質問デスカ

○高木正年君(二百五十二番) 質問デス

○議長(片岡健吉君) 高木正年君

○高木正年君(二百五十二番) 私ハ償金ノコトニ附キマシテ、臨席ノ大藏大
臣ヨリ御答ヲ願ヒマス

(「大藏大臣ハ出席シテ居ナイ」ト呼フ者アリ、笑聲起ル)

○島田三郎君(三十七番) 念ノタメニ伺ヒタイ、議長ニ向テハ撤回スル理由
ヲ竊ニ漏ラサレタノデアルカ、議長ハ何カ議院ニ向テ報告サレルコトガア
ルカ

(「無用々々」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御黙シナサイ

○議長(片岡健吉君) 唯今報告致シマシタ通デゴザイマス

(「議場騒然」)

○島田三郎君(三十七番) 御黙シナサイ、議長ニハ何モナイノデアリマス

○議長(片岡健吉君) 唯今報告致シマシタ通デアリマス

(「退場ヲ命ズベシ」ト呼フ者アリ)

○島田三郎君(三十七番) 御聽キナサイ、今議長ハ報告シタ通デアリマス

○島田三郎君(三十七番) 其事ヲ念ノタメニ伺ヒタイ、能ク聽取レナカッタ、
本員ノ聽損ツタ過ハ謝シマスカラ

○議長(片岡健吉君) 撤回スル理由ハ、今報告シタ通デアリマス

○島田三郎君(三十七番) 撤回スルダケノコトデスカ

○議長(片岡健吉君) サウデス

○島田三郎君(三十七番) ハア

○議長(片岡健吉君) 諸君ニ御諮リスルコトガアリマス、清國償金特別會計
法案ノ提出者尾崎行雄君ヨリ、本案撤回ノコトヲ申出ラレマシタ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○島田三郎君(三十七番) 質問ガアリマス

○議長(片岡健吉君) 是ハ委員會ニ付セラレテ、委員會ハ結了シテ報告ニナッ
テ居リマスガ、是マデ委員會ノ結了シタ後ニ、撤回ヲ致シタ先例モアリマス、
撤回ノコトヲ許シテ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○島田三郎君(三十七番) 矢張本員ハシツコグモ、同シ理由ヲ議長ニ告ゲマ
シテ、議會ニ聞イテ戴キタイ、斯ノ如ク審査委員ヲ屢ニ玩弄シテ撤回スルト
云フヤウナ...

○議長(片岡健吉君) 今問題ハナイ

○島田三郎君(三十七番) 質問デス

○議長(片岡健吉君) 此事ニ附イテ質問デスカ

○島田三郎君(三十七番) 此事ニ附イテ質問ガアル

○議長(片岡健吉君) 此撤回スル案ニ附イテ質問デスカ

○島田三郎君(三十七番) サウデス

○議長(片岡健吉君) ツレナラ許シマス

○島田三郎君(三十七番) ツレ故ニ尾崎君ヲシテ、尾崎君ハ決シテ口ノ拙キ
議員デナイノデアルカラ、理由ガアレバ説明モスルダケノ技術ノアル議員デ
アルト本員ハ見テ居リマス、ツレ故ニ撤回シタコトヲ、撤回スルマデノ手
續、撤回セザレバ已ム能ハザル理由ヲ、議院ニ公然ト告グラレタイ、委員ノ煩
ハシ、玆ニ議事ノ進行ヲ妨ゲタル所ノ此手續ニ向テ、説明ヲ與ヘラレテ(議
場騒然)本員ハモ許サヤト云フコトヲ、尾崎君ヨリ説明ガナケレバ、本員ハ
起立ニ苦ムノデアアル、又之ヲ議長ヨリ尾崎君ニ照會セラレンコトヲ望ム、併
ナガラ尾崎君ニシテ理由ヲ明言スル能ハズト云フナラバ、本員ハ無イ所ノ理
由デ撤回セラレタト認メテ、是レ亦已ムヲ得ズ許可スルニ至ルカモ知レヌ、
承リタイ

(「無用々々採決」ト呼ビ又「撤回ノ理由ヲ聞クニ差支ナイ」ト呼フ者ア
リ)

○島田三郎君(三十七番) 理由ガ言ヘナイト云フノデスカ、照會ヲ願ヒマ
ス

○議長(片岡健吉君) 尾崎君、理由ヲ述ベマスカ

(「議場騒然」)

○島田三郎君(三十七番) 本員ハ自分ノ權利ニ依ッテ質問ヲ爲スノニ、其權利
ヲ妨ゲル者ハ...

○議長(片岡健吉君) 島田三郎君、議長ノ許可ナクシテ發言ハ許シマセヌ

(「退場ヲ命ズベシ」ト呼フ者アリ)

○島田三郎君(三十七番) 懲罰ニ御付シナサイ、本員ハ質問ノ權利ヲ何處マ
デモ維持シテ居ル、出来ナイト云フナラバ...

(「退場ヲ命ズベシ」ト呼フ者アリ、議場騒然)

○島田三郎君(三十七番) 懲罰ニ御付シナサイ、本員ハ當然ナル權利ヲ得タ
ノデアアル、尾崎君ガ答辯ガ出来ナケレバ...

○議長(片岡健吉君) 本案ニ附イテ採決致シマス

(「野間五造君質問シテ居ル、ツレニ答辯スルノハ當リ前デアル」ト呼
フ、議場騒然)

○島田三郎君(三十七番) 理由ガナケレバ...

○議長(片岡健吉君) 議長ガ許サナイノニ發言シテハナリマセヌ

○島田三郎君(三十七番) 發言權ヲ求ムル、御許ニナリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 許シマセヌ、尾崎君ハ御答辯ナサイマスカ

○尾崎行雄君(五十一番) 理由ヲ聽キタイト云フコトデアリマスカラ、理由
ヲ極ク明白ニ説明致シマス、都合ニ依ッテ撤回ヲ致スト云フコトデアリマ
ス

○議長(片岡健吉君) 本案ニ附イテ採決致シマス、本案ノ撤回ヲ許スニ同意
ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、本案ハ撤回ヲ許スコトニ致シマ
ス

(「書記朗讀」)

○議長(片岡健吉君) 緊急ノ報告ガアリマスカラ、朗讀ヲ致サセマス

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

(「書記朗讀」)

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、本案ハ撤回ヲ許スコトニ致シマ
ス

(「書記朗讀」)

○議長(片岡健吉君) 緊急ノ報告ガアリマスカラ、朗讀ヲ致サセマス

(「書記朗讀」)

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

(「書記朗讀」)

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、本案ハ撤回ヲ許スコトニ致シマ
ス

(「書記朗讀」)

○議長(片岡健吉君) 緊急ノ報告ガアリマスカラ、朗讀ヲ致サセマス

(「書記朗讀」)

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

(「書記朗讀」)

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、本案ハ撤回ヲ許スコトニ致シマ
ス

(「書記朗讀」)

○議長(片岡健吉君) 緊急ノ報告ガアリマスカラ、朗讀ヲ致サセマス

(「書記朗讀」)

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

(「書記朗讀」)

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、本案ハ撤回ヲ許スコトニ致シマ
ス

(「書記朗讀」)

○議長(片岡健吉君) 緊急ノ報告ガアリマスカラ、朗讀ヲ致サセマス

(「書記朗讀」)

明治三十五年度歳入歳出總豫算案並明治三十五年度各特別會計歳入歳出豫算案

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件

○議長(片岡健吉君) 静ニナサイ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

ナラバ後トテ質問ヲナサイ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議アリ

黨ノ諸公モ、何處カデ總理大臣ニ密會シタト云フコトガアリ、又ハ近來政友會ノ諸君モ、初メ交渉ヲシタ所ガ不調ニナツタトカ、其後一週不調ニナツタモ、又何トカノ周旋ニ依リテ、再ビ密會シタトカ云フヤウナ、密會々々ト云フ惡弊ノ結果、吾々ノ案ガ否決セラレタト思フ(笑聲起ル)是ハ獨リ我輩ノ遺憾ニ思フノミナラズ、堂々ト立憲ノ政體ニ於テ、此ノ如キモノガ増長シテ來タナラバ、實ニ内外ニ對シテ此議會ノ信用ヲ地に墜スモノナリカ知ラヌト思フノデゴザイマス(ヒヤノ)ト呼フ者アリ、故ニ本員ハ飽クマデモ此案ノ大體ヲ論ジテ以テ、諸君ノ御贊成ヲ請ハントスルノデゴザイマス、皆是ヨリ本案ノ大體ニ就イテ意見ヲ述ベマス(笑聲起ル)本案ノ大體デス、抑、本案ヲ提出シタ理由ハ茲ニ最モ大キナル理由ガ二ツアリマス、第一ニハ此支那ノ債金ノ確實デアアルカ不確實デアアルカト云フコトハ、隨分尾崎君ノ言レタ所モ一應尤デアアリマスケレドモ、本員ノ主張スル所ハ、ソレハ一應御尤トシテ、先ヅ別ニスルノデゴザイマス、免ニモ角ニモ此三十九箇年ニ入テ來ル金ヲ、今年一年デ賣飛バシテ、今年ノ財政ニ繰込マナケレバナラヌト云フ必要ガナカラウト思フ、殊ニ必要ノナキノミナラズ、之ヲ三十五年度ノ豫算ニ組込ムト云フコトハ、寧ロ害アッデ利ナキモノデアアル、ナゼ害ガアッデ利ナキモノデアアルト云ヘバ、本員等ハ常々思フ、近來我國ノ財政ノ膨脹ハ實ニ夥シイ、無謀ナ膨脹ヲヤッテ居ルノデゴザイマス、故ニ此財政困難、財政困難ト云フコトハ、上下ニ充チ滿チテアッテ、當局者ニ於テモ財政ノ整理ヲ云フコトヲ明言セラレテアル、前ノ内閣ニ於テモ、亦今ノ内閣デモ之ヲ明言セラレテアル、然ラバ此財政ノ困難ト云フモノハ我國ノ輿論デアアル、而シテ此財政ノ斯クナツテ來タノハ何ノタメデアアルカ、我國ハ殆ド段々衰亡シテ往ツテ、國力ガ弱クナルカト云ヘバ、決シテサウデハナイ、我國ノ國力ハ年々伸張シテアルノデゴザイマス、然ルニ此困難ヲ來スト云フモノハ、畢竟財務當局者ノ遣分ガ其當ヲ得ナイ、緩急前後ヲ誤ツテ居ルカラシテ、此ノ如ク困難ヲ來セモノデアアルト云フコトヲ、私ハ明言スルヲ憚ラヌノデゴザイマス、今其一例ヲ舉グレバ、明治三十年度ニ於テ、政府ハ十箇年計畫ト云フモノヲ調成セラレテ、吾々ニ示シタノデアアル、此十年計畫ト云フモノニ附イテハ、本員等モ多少ノ反對デアタケレドモ、尙ホ此十年計畫ト云フモノハ略々多數、是認シタ所ニナリマシタカラ、吾々モ之ヲ輿論デアアリマスマイガ、一應之ヲ基礎トシナケレバナラヌ、然ルニ其時ニ提議シタ所ノ歳出ト云フモノハ、三十五年度ノ歳出ハ斯ノ如シト云ツテ示サレタ所ハ、幾ラカト云ヘバ、一億六千六百萬圓デアアル、然ルニ本年度ノ歳出ハ合計幾ラカト云ヘバ、二億七千五百萬圓デアアル、差引テ見ルト一億九百萬圓ト云フモノガ、財政ガ膨脹シテアルノデス、十年計畫シテ此目的ヲ達シテ往クト云フコトデアリマス、今其目的ヨリ殆ド倍ニナラントスルガ如ク、差引イタ差ガ一億九百萬圓ノ増加ニナツテ居ルト云フモノハ、實ニ驚入ッテ次第ヤゴザイマセウ、其上一億三十四年度ノ豫算ト三十五年度ノ豫算ト比較シテ見レバ、是レ亦膨脹ノ過ギタ三十四年度ニ對シテ三十五年度ノ豫算ト云フモノハ、尙ホ六百三十萬圓餘ノ金ガ増加シテアリマス、之ヲ或ハ論者ガ國ノ進歩ニ伴フ歳出ノ増加ハ、已ムヲ得ナイト云フ御方ガアリマセウ、併ナガラ我國ノ民力ハ果シテ之ニ堪フルヤ否ヤ、民力モ此財政ト共ニ、人民ノ資産モ國力モ共ニ、或ハ進デ往ツタナラバ、吾々ノ國家ノタメニ萬歳ヲ稱サナケレバナラヌ、或ハ恐ル民力ハ或ハ三分進デ居ル所ニ、財政ノミ七分モ八分モト云フ進ミナツテ往クカラシテ上下共ニ困難ヲ來セモノト私ガ深ク信ズル者デゴザイマス、然ルニ此ノ如キ財政ノ膨脹ニモ拘ラズ、尙ホ當年取ツタ所ノ支那ノ五千萬圓ノ公債ヲ、

一度ニ賣飛バシテ是ニ使ツテシマハナケレバナラヌト云フコトハ、イヅレニ必要ガアルカ、所謂本員ガ先キニ云フ害ノアルト云フノハ其事デアアル、ソレヲ一時ニ入レ、パツレダケ直グニ三十五年度ノ歳出ガ膨脹スルノデゴザイマス、此膨脹ヲ第一ニ止メナクチャナラヌト云フモノハ、本員等ノ最モ主張スル所デアアル、又此三十五年度ノ計畫ノ、之ヲ一時ニ賣飛バシテ増稅金トト合セテ、其内カラ軍艦水雷艇ノ基金ノ補充、其他ノモノニ充テルト云フ計畫ニナツテ居ル、是ハ新シイ内閣デ、前内閣ノ方針ト大ニ變ルト云フナラバ、我輩敢テ云フコトハ出來イケレドモ、此間政府委員ニ委員會デ問ウテ見ルト、敢テ前内閣ノ方針ヲ變ヘタノデヤナイト云フコトヲ、明言セラレテ居ル、果シテ變ヘタノデヤナケレバ何ノコトデアリマセウ、昨年増稅ノトキニ方ツテ、政府ハドウ云フ案ヲ吾々ニ示シタカ、即チ三十四年度、三十五年度、三十六年度、三十七年度マデニ、此増稅ノ收入ト支出ノ金員ヲ明ニ示サレタノデアアル、而シテ三十七年度マデハ、決シテ他ノモノニ使ハズシテ、此北清事件費ノ一途ニ使フ、ソコデ北清事件費ノ此當時カラ使フノト、業ニ既ニ使ツテシマツタモノ、或ハ基金ノ補充トハ、此増稅ヲ以テヤルト云フコトヲ、明ニ吾々ニ示サレタノデアアル、是ニハ吾々ハ反對モゴザイマシタケレドモ、遂ニ畏レ多クモ詔勅ノ結果トシテ、此事ガ實行セラレタ、蓋シ此詔勅ヲ以テ實行セラレタノモノ、恐ラクハ此政府ノ吾々ニ示サレタ所ノ方針ニ基イテ、支出スル積デアアラウト思フノデゴザイマス、然ルニ今ヤサウデナイ、之ヲ別ノ方ニ使ツテ往カウト云フコトハ、殆ド増稅スル所ノ理由ハ、人民ヲ瞞著シタモノデアアル、議會ヲ侮蔑シタモノデアアルト謂ハナケレバナラヌ、或ハ委員會ニ於テ阪谷政府委員ハ、吾々ニ答ヘルニハ此表ト云フモノハ、數字ヲ書イタモノデアアル、償金ヲ取ラナイ前デアアルカラシテ、サウデアアルガ既ニ取ツタ以上ハ違ガアルト云フコトハ、當リ前デアアルト云フコトヲ云ハレラケレドモ、元ト二千三百萬圓ノ北清事件費ニ使フト云フモノハ、幸ニシテ少クナツタモノデアアル、マサルカラ、數字ハ違フニ相違ナイ、違ヘバドウスルカト云ヘバ、日本銀行ノ借入金ヲ還ス、又三十五年度ニ於テ基金ヲ填補スル所ノ金ヲ増加スルノハ當然デ、免ニモ角ニモ此方ヘ支出シナケレバナラヌト云フモノヲ、之ヲ變ヘテシマツタト云フモノハ、即チ前内閣ノ方針ヲ大ナル變革ヲシタモノト謂ハナケレバナラヌ、然ルニ若シ之ヲ變更シタルモノトスルナラバ、或ハ政府委員ガ答辯スルノハ、元々増稅ト云フモノハ、何デヤツタカト云ヘバ、北清事件ガ起ツタ、此事ハ指置クベカラザルモノデアアル、全體此事ト云フモノハ一時借入金デモシテ居ツテ、他日支那カラ償金ヲ取ツタキニ、ソレハ果シテ償金ガ取レラケレドモガ、支那ハ餘リ財政ノ裕ナ國デナイカラ、果シテ償金ガ取レラケレバ否ヤト云フコトガ、見極ガ附カヌ故ニ、稅ヲ起シテ増稅ヲシテ、此費用ヲ償ハナケレバナラヌト云フモノハ、然レバ此北清事件費ト云フモノハ、最早増稅ヲ以テ支出ノ途ヲ極メテアル、然レバ支那カラ償金ガ取レルカラト云フナラバ、若シ取レタト云フモノハ、ソレハ幸ト謂ハナケレバナラヌ、全ク當ニシタ金デアナイノデゴザイマス、ソコデ當ニシタ金デアナイカラシテ、之ヲ特別會計ニシテ以テ、此國家ノ必要ナルコト、最モ著シク必要ナルモノニ使ヒタイト思フ、若シ簡短ニ之ヲ一片ノ理窟デ云フナラバ、償金ガ取レナイ積デア増稅ヲシタリマセウ、然レドモ今片方ニ東洋事件ト云フモノガアツタ、今此金ヲ還スノハ不都合デアアルニ附レドモ、最モ國家ニ急務ナル所ニ使ハナケレバナラヌノデアアル、然ルニ政府ハ一ノ法律案モ立テズシテ、漫然三十九箇年ノモノヲ賣拂ツテ、一時ノ遺線ニ充テントスルガ如キハ、最モ當ヲ得ヌコトデア

アリマスカラ、之ヲ以テ特別會計ニシタイト云フノデゴザリマス、又第二ニハ
(二)簡短々々ト呼フ者アリ、マアドウソ御退屈デゴザイマス、モウ少シ御
勸辨ヲ(三)簡短々々ト呼フ者アリ、未タ大分ゴザイマス、モウ一ツハ倍此ノ如
キ特別ノ金デアルカラ、我國ノ前途百年ノ大計ヲ定メルニ、最も必要ナル
モノ、用途ヲ定メテ、私ハ使ヒタイと思ヒマス、而シテ其理由ハ先達本會ノ
第一讀會ニ於テ申シマシタカラシテ、敢テ私が今此處ニ繰返シハシマス、
然レドモ其時ニハマダ東亞ノ經營ニ使フコト云フヤウナ、漫然タルコト云フ
テ委細ノ事ヲ言ヒマセヌカラ、諸君等ハ或ハドンナコトニ使ハウカト云フ御
疑ガアルカモ知レナイ、併シ私ハ今敢テ此處ニ二三ノ事件ヲ列舉シタノデア
リマス、是ハ何デモ宜シイガ、先ヅ思フテ見ルコト云フ、我國デ今日交易ナ
リ國威ヲ伸張スルニ、西洋各國ニ向テ伸張スルガ易イカ、東洋ニ向テ伸張
スルガ易イカト云フナラバ、先ヅ東洋ニ向テ國威ヲ伸張スルコトガ
易イ、蓋シ諸君ハ御同感デアラウト思フノデゴザイマス、然ルニ
此我國ノ利益ヲ増進スルニハ、ドウ云フコトヲスルカト云ヘバ、獨リ軍隊ノ
ミノ力ヲ往クモノデナイ、即チ農工商業、總テサウ云フ點カラ向ケテ往カ
ナケレバナラヌカ、誠ニ今ノ京釜鐵道京釜鐵道ハ、今此位ノコトヲ以テ滿
足シテ居ナラヌカ、隨分唯今ノ京釜鐵道ハ、今此位ノコトヲ以テ滿
居ルモノデアアル、吾ハ未ダ京城マデ達シタコト云フテ是デ安心ノ出來ルモ
デヤナイ、今一步進デドウカ露西亞ノ滿洲鐵道近ト聯絡スル位ノコトハ、奮
シナクチヤナルマイト思フ、又或ハ識者ガ唱ヘル、別シテ此進步黨ノ犬養君
杯ガ唱ヘルト云トコトデゴザイマスガ、日清銀行ト云フモノモ、誠ニ結構デ
ゴザイマス、ドウカ此日清銀行ノヤウナコトモヤリタイ、又或ル人カラ開
テ見マスルト、楊子江沿岸ノ交易或ハ其河ノ運輸ト云フモノガ、最も必要デ
アル、少シ日本デ擴張シ掛ケテ、往クト云フ、此權利ヲ十分占メ、權利ノ
ミナラズ其利益ヲ收ムルニ長イト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、是等ニモ多
少政府ガ補助シタナラバ、太ニ是モ延スガ宜カラウ、又一方ニ新聞カラ聞
所ニ據レバ、福州ハ我國ノ殆ド勢力範圍ノ如キコトヲ言ハレルケレドモ、何
モ日本デ手ヲ出サナイ、當時佛蘭西人ガ此福州内ノ鑛山ヲ採掘スルコトヲ取
運シテ居ルト云フコトデゴザイマス、其滿洲或ハ近頃ノ新聞ニ據レバ、
英吉利日本或ハ米國等ノ抗議ニ依ッテ、露西亞ガ將ニ滿洲カラ兵ヲ引カントス
ルガ如キ、模樣ガアルト云フコトデアリマス、果シテ此滿洲カラ露西亞ガ兵ヲ
引イタトキニハ、唯默ッテ居チヤア仕方ガナイ、是非其下カラ我日本人ガ這
入ッテ、或ハ鐵道ナリ、或ハ鑛山ナリ、或ハ工業ナリ、ドシ、之ヲヤルヤウナ
元氣ガナケレバ、イカノデゴザイマス、唯手ヲ拱シテ我利益ヲ擴張シ我權
力ヲ増進セントシタ所ガ、到底出來ヌノデアアル、凡ソ是等ノコトガ其時ノ議
會ノ協賛ニ依ッテ、當局者ガ十分ナル案ヲ立テ、其方ニ使ヒタイと思フノデ
ゴザイマス、或ハ汝ノ言フ所ガ斯ノ如キ大希望ヲ言ヒナガラ、僅カ年ニ二百
萬圓内外モリナイ金ヲ以テ、ソナモノニ充テルト云フコトハ、餘リ過當ナ
譯チヤアナイカト云フ御方モゴザリマス、私ガ思フ、凡ソ事ヲヤルト云
フモノハ、必ズ政府ノ力デバカリヤルモノデナイ、若シ之ヲ日本ノ商法家工
業家ニ訴ヘテ、督勵獎勵ノ途ヲ講ジタナラバ、此二百萬圓三百萬圓ニ對スル
幾百倍幾十倍ノ資金ガ集テ來ラダラウト思フ、元來此日本ハ此鎖港主義カラ
建ツタ國デゴザイマス、何分ニモ殘念ナガラ商法家工業家モ外國ニ向ッテ
事ヲヤルト云フコトハ、未ダ十分ノ力ガナイノデアアル、故ニ金ヲ以テ之ヲ督
勵シタナラバ、大二十倍二十倍ノ力モ爲サウト思フ、殊ニ私ガ殘念ニ思ヒマス

ルノハ、或ル人カラ聞ク所ニ據レバ、此度天津ニ依ッテ我居留地ヲ大變ニ
廣クシテ其クシタガ、之ニ對スル金ハ二百萬圓要ルカラ、ドウカ居留地ヲ全
ウシタイト言フ所ガ、日本政府ハ金ガナイカラソレガイカスト言フ、軍人
杯ハ最も希望シタコト云フコトデアアル、ソコデ已ムヲ得ナイカラ、實テハ二十萬
圓ノ金ガアレバ、此境界等ヲ正ウシウシテ、他カラ侵入サレルコトハナイカ
ラ、此境界ダケモ明ニシタイト言ウテ、二十萬圓ノ金ヲ出シテ吳レト言フ
トキニ、是モ金ガナイカラト言フテ止メタト云フコトハ、如何ニモ殘念ナ
コトデアアル、戰バカリ勝ッテモ後ノ事業ト云フモノハ、何時デモ負ヲ取ッテ居
ノデゴザイマス、又或ハ極反對ノ論者ガ言フニハ、若シ之ヲ東亞ノ經營費ニ
使フト言ウタナラバ、或ハ外國ノ忌諱ニ觸レハシナイカト云フ、老婆心ヲ懷ク
人モアリマス、ケレドモ、ソレハ誠ニ婆心ノ甚キモノデアルト思フ、凡ソ優勝
劣敗、競爭シナクチヤアナラヌト云フコトハ、是ハ社會ノ通議デアアル、日本
ハ東洋ニ向ッテ資本ヲ持ヘテ、大ニ工業商業或ハ運輸ノ便ヲ圖ルガタメニ、此
特別會計法案ヲ出シタトテ、何ノ外國ヘ憚ル所ガゴザリマス、又ヨシ或
外國ガ是ヲ疑フテ見タ所ガ、コンナ所ニ恐レテヤルヤウナコトデハ、何
ヲ以テ我國ハ他日ノ利益ヲ擴張スルコトガ出來マセウカ、假令或ル一國位ノ
疑ガアツテモ、ソレ等ノコトハドシ、ヤッテ、我國ノ開運ヲ料ラナケレバ
ラナイコト、思ヒマス、旁、此二ツノ點ヲ以テ、是非共ニ此支那ノ償金ヲ特別
會計ニ移シタイト思ヒマス、願ハクハ滿場ノ諸君御贊成アラントコトヲ偏
ニ希望スル譯デゴザイマス

(贊成々々ト呼フ者アリ)

○高水正年君(二百五十三番) 私ハ委員長ニ御尋シタイ、一體償金問題ハ殆
ド當議會ニ埋沒セラレタ感ガゴザイマス、サリナガラ償金問題ハ三十年代豫
算ニ對スル一問題タルニハ、確ニ相違ナイノデアリマス、先刻私ハ此事ニ向
テ、大藏大臣ニ質問ヲ求メマシタガ、唯今席ニ居ラナイヤウデアリマス、
更ニ此償金特別委員長タル松田君ニ向ッテ御尋ヲ致シタイと思ヒマス(ソレ
モ居ラスト呼フ者アリ) 居ラズバ其中ニ御出ニナルト思ヒマス、委員中
ノ御方モ此席ニ確ニ御出ニナルト思ヒマス、其事柄ハ議會始ッテ以來、此償金
問題ノ經過位不思議ナ經過ハナイノデアリマス、デ工藤君ノ案ノ委員會デ排
斥セラレタノハ、所謂比較的尾崎君ノ案ヲ可ナリトシタ結果デアルト思ヒマ
ス、若シ單純ニ工藤君ノ案ノミガ委員會ニ存在シタリシナラバ、工藤君ノ案
ハ或ハ通過シ、若クハ他ノ方法ニ依ッテ、議會ニ報告セラレタニ相違ナイト、
私ハ自信スルノデアリマス、委員長タル松田君ハ案ノ撤回ト共ニ、其間ノ此
間ノ説明ヲ缺イタノハ、頗ル遺憾ト爲ス所デアリマス、松田君ハ一面ニ於
テハ委員長タリ、一面ニ於テハ償金特別會計ノ提出者ノ一人デアリマス、
イザレノ方面ヨリ向ッテモ、此案ニ對スル理由ヲ缺クト云フコトハ、單ニ委員
會ニ對シテ惜ムノミナラズ、當議會ノ問題ヲ、而モ大政黨ノ力ヲ以テ、當議
會ヲ沒責任タラシムルニ、頗ル私ノ取ラザル所デアリマス、ソレ故ニ此間
ノ最も明瞭ニ最も明確ニ、是等ノ責任ヲ說キ、是等ノ仕末ニ辯明セラレ、
從ッテ二十五年度ノ豫算ノ上ニ附イテ修正モ、之ガタメニ吾ニヨシテ承諾
セシムルノ處置ヲ執ルノハ、確ニ先輩諸君ノ責任デアルト思フノデゴザイマ
ス、三四俱樂部ハ玉ノ如キ處女デアリマス、此無疵ノ三四俱樂部ヲ誘ウテ溝
瀆ニ陷レテ、而モ願ザルハ政友會ノ人ノタメニ取ラザル所デアリマス、世

開放蕩無賴ナル者ガ、人ヲ誘ウテ自殺ヲ圖ツテ、而モ自ラ助ツテ之ニ依ッテ同情ヲ得ルヲ云フ例ガ澤山アルノデゴザイマス、或ハ同情ヲ得テ目的ヲ達シタノカ知レヌノデアリマス、若シ政友會ノ提出者若クハ委員長タル松田君ニ於テ、此間ノ理由ノ明確ナラザルヲテハ、今私ノ引イザラシメテ、例證ハ、確ニ政友會其ノ人ノ受ケネバナラヌ責務デアラウト思ヒマス、ソレ故ニ償金問題ヲシテ明瞭ナラシム、而モ三十五年度ノ豫算ヲシテ、宜シク我國ノ公益ヲ起シ、我國ノ將來ノ政況ヲ圓滑ナラシムルノ議決ヲ爲サシムルニハ、委員會ニ於テノ經過若クハ提出ヲ撤回サレタ所ノ理由ニ於テ、最モ明ニ説明アラントコトヲ望ムノデゴザイマス

○議長(片岡健吉君) 委員長ハ閣席ニナツテ居リマスカラ、答辯ハナイト思ヒマス

○高木正年君(二百五十三番) 答辯ガナケレバ宜ウゴザイマス

○議長(片岡健吉君) 採決致シマス、本案ニ附イテ第二讀會ヲ開クヤ否ヤノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開カウト云フ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(片岡健吉君) 少數ト認メマス、第二讀會ヲ開クベカラザルコトニ決シマシタ、議事日程ノ第一ニ移リマス、畜牛結核病豫防法中改正法律案、第一讀會ノ續、委員長報告佐藤昌藏君

第一 畜牛結核病豫防法中改正法律案 第一讀會ノ續(委員長報告)

(佐藤昌藏君演壇ニ登ル)

○佐藤昌藏君(二百二十番) 諸君、畜牛結核病豫防法中改正法律案、特別委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、委員會ハ本月二十日ヲ以テ委員長理事ノ選舉會ヲ致シマシタ、午後ニ本會ヲ開キマシテ、本案ヲ改正スル、本案ハ本年三月北海道地方費法ノ法律案發布ニ附キマシタ、本案ヲ改正スル、必要ハ本年三月シタル義ニゴザイマシタ、意義明瞭ナルモノデゴザイマスカラ、即刻滿場一致ヲ以テ決致シマシテゴザイマス、誠ニ簡單ナル法文デゴザイマスルシ、讀會ヲ省略シテ可決アラントコトヲ希望致シマス

(贊成々々々ノ聲起ル)

○議長(片岡健吉君) 讀會省略ニ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシニ呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ讀會ヲ省略致シマス、本會ハ委員長ノ報告通御異議アリマセヌカ

第二 畜牛結核病豫防法中改正法律案 確定讀

(異議ナシニ呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ委員長ノ報告通決定致シマス

○恆松隆慶君(二百二十四番) 此次ノ第二カ第九マデハ一括シテ議題トシテ、而シテ提出者ハ各説明ヲ略シテ、ソレノ委員ニ付托シタイト云フノデゴザイマス、是ハ提出者ニハ私モ第五ノ家祿賞典祿處分法中改正法律案ノ提出者デアラガ、此場合デゴザイマスデ、理由ハ述べナイ、ドウカ諸君ノ、外ノ問題ノ提出者モ各略シテ、委員ニ付托スルト云フコトニ御同意アラムコトヲ望ミマス

(贊成々々々ノ聲起ル)

○議長(片岡健吉君) 今、恆松隆慶君ノ説ハ、議事日程ノ第二ヨリ第九マデ

デゴザイマス

○恆松隆慶君(二百二十四番) 第九マデデス

○議長(片岡健吉君) 日程第二ヨリ第九マデヲ一括シテ議題ト爲シ、各特別委員ニ付スルト云フ、其委員ハ一案毎ニスルノデスカ

○恆松隆慶君(二百二十四番) 各別ニソレハ更ニ申シマス

○議長(片岡健吉君) 一括シテ議題ニ付スルコトニ、御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシニ呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス

第二 蟲害地租特別處分法案(橋本久太郎君外三名提出)

第一條 本法ハ明治三十四年中蟲害ニ因リテ生シタル損害地ニ適用ス

第二條 前條ノ土地ニシテ收穫皆無ナルモノニ限リ明治三十四年分地租ヲ免除ス

第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治三十四年分ニ限リ之ヲ免除ス

第四條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ地租徵收ヲ猶豫ス

第五條 本法ニ依リ地租ヲ免除セラルヘキ土地ニ付テハ既ニ納メタル地租金ハ之ヲ還付ス

第六條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムスル者ハ明治三十五年六月三十日迄ニ申出ヘシ若クハ此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

附則

本法ニ依リ特免シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

第三 登錄稅法中改正法律案(鹽田忠左衛門君提出) 第一讀會

登錄稅法中左ノ通改正ス

第二條 第一項第二十一號及第二十二號中「不動産每一箇金十錢」ヲ「不動産每一箇金五錢」ニ改ム

第四 關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案(早川龍介君外四名提出) 第一讀會

關稅定率法附屬輸入稅表中左ノ通改正ス

第一種第二類「三七生卵一、〇」ヲ「三七生卵九、〇」ニ改ム

第五 家祿賞典祿處分法中改正法律案(恆松隆慶君外五名提出) 第一讀會

家祿賞典祿處分法中左ノ通改正ス

第四條ノ二 給與ノ願出ニ對シ不許可ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六 京都府下國界並郡界變更法律案(野尻岩次郎君外二名提出) 第一讀會

京都府丹後國與謝郡雲原村ヲ同府丹波國天田郡ニ編入ス

附則

本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七 社寺上地林保管法案（出水彌太郎君外二名提 第一讀會）

第一條 國有林野中社寺上地林ニシテ官用若ハ公用ニ供シ又ハ國有土地森林原野下戻法ニ依リ下戻スヘキモノ及國有林野法ニ依リ不要存置トシテ拂下ヘキモノ、外國有ニ屬スルモノヲ社寺林地ト稱シ之ヲ其ノ社寺ニ保管セシム

第二條 社寺ニ於テ其ノ保管ヲ欲セサルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得

第三條 社寺ニ於テ其ノ保管ヲ欲セサルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得

第四條 社寺ニ於テ其ノ保管ヲ欲セサルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得

第五條 社寺ニ於テ其ノ保管ヲ欲セサルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得

第六條 社寺林地ハ府縣知事ノ管轄ニ屬シ農商務大臣之ヲ監督ス

第七條 保管者ハ社寺林地ヲ使用シ變更シ又ハ建造物ヲ設ケ及主副產物ヲ採取セムトスルトキハ其ノ用途ヲ具シ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 保管者ハ社寺ノ維持若ハ保護ニ必要ニ依リ社寺林地ノ樹竹ヲ伐採シ又ハ土石ヲ採掘セムトスルトキハ其ノ用途及施業方法ヲ具シ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 府縣知事ニ於テ植樹ノ必要アリト認ムルトキハ保管者ニ命シ苗木植付ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十條 第二條第二項ニ違反シタルトキハ保管者ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 前項ノ場合ニ於ケル樹竹土石ハ之ヲ官沒シ其ノ既ニ賣却シタルモノハ代金ヲ追徵ス

第十二條 第八條ニ違反シタルトキハ保管者ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 前項ノ場合ニ於ケル使用地ハ之ヲ禁止シ變更地ハ原形ニ復セシメ建造物ハ解除セシメ主副產物ハ官沒シ其ノ既ニ賣却シタルモノハ代金ヲ追徵ス

第十四條 本法案ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 本法案ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八 社寺上地林處分法案（出水彌太郎君外二名提 第一讀會）

第九 監視廢止ニ關スル法律案（安藤龜太郎君提出） 第一讀會

第一條 刑法、陸軍刑法、海軍刑法其ノ他ノ法令中監視ニ關スル規定ハ之

第一條 刑法、陸軍刑法、海軍刑法其ノ他ノ法令中監視ニ關スル規定ハ之

第二條 本法施行以前ニ於テ確定シタル判決ノ執行ニ依リ監視ニ付セラル

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

〇 恆松隆慶君（二百二十四番） 是ハ第二八九名ノ委員、フレカラ第三ノ日程

所ハ其勢最モ猛烈ナルモ之ヲ遠サカルニ從ヒ輕弱トナルハ衆人ノ知所ナレハナリ
就中橋梁附近ノ地勢タルヲ前條ニ述ベタルカ如ク西北間ノ風ヲ横ニ受クヘキ姿勢ヲ有スルカ故ニ
然ル橋梁ニ當リハ橋ノ中央ニ列車ヲ進行シ來リ一刹チ不幸ニモ風力ノ其客車ニ衝突セシモノナ
ラン乎其風力カ車輛ノ安定度ヨリ超過スルニ於テハ脱線顛覆ハ免カレハカラサル所ナリ

以上序ヲ述ビテ續シタルカ如ク今同ノ變災ニ付テハ或ハ實地ニ就キ或ハ實物ニ當リ或ハ學理上ノ推
算ニ當リ其事考スルニ其原因タル之ヲ線路ノ不長車輛ノ不完全列車組成ノ不整運轉速度ノ過大若
クハ當務者ノ過失等ニ歸スヘキ證據ヲ發見スルヲ得ズ依テ猛烈ナル風力ニ起因スルモノト推定スルノ
外ナキモノト認ム

（四）常川列車顛落ノ狀況栃木縣知事ヨリ內務大臣ニ報告書
明治三十二年十月七日縣下那須郡野崎村常川鐵橋ノ狀況別紙ノ通ニ候條此段報告書候也
明治三十二年十月十三日
內務大臣侯爵西郷從道殿
栃木縣知事 溝部 惟茂

汽車事變顛末報告
明治三十二年十月七日午後七時十分矢板警察署長ヨリ（今五時常川鐵橋ヨリ客車顛覆死傷多キ見込今
取調中檢仰ト）ト電報ニ接シ同日午後九時宇都宮下り列車ニテ參事官西村陸奥保安課長警部田上
康夫衛生課長警部田上三郎赤十字社本縣支部主事江夏喜藏縣立病院院長栗本庸勝等ヲ事變ノ現場タル
那須郡野崎村ニ出張セシメ事實ノ取調及救護ノ手配ヲナシタル實況左ノ通りニ有之候

第一現場ノ概況 矢板縣下野崎村ノ間ニ於ケル常川鐵橋ハ凡ソ三百尺ニシテ（ローヤ）十三箇ニ依
テ架設セラレシ軌道上下板橋ノ方ヨリ第七第九（ローヤ）間ニ於ケル右側ノ橋下ニ或ハ全體鐵壓ニ
又ハ屋根ノミ若シハ臺ノミノ客車タリシト認ムヘキ第一箇目ノ散亂シ其形狀ハ實ニ第一箇目ノ如
クニテ殆ント名狀セヘカラルル慘狀ナリ而シテ矢板縣下ノ方ニ屬スル沿岸ノ民家八名ノ負傷
者ヲ收容シ附近ヨリ駐付タル醫師ニ於テ應急手當ナリ又矢板警察署長警部佐々木清大田原警察
署長警部齊藤吉彌ハ五巡査十數名ヲ指揮シ兩沿岸民及非常召集ニ應ジタル消防隊約二百餘數ヲ督
シ之レヲ數點ニ分テ兩岸ヨリ傷者ノ救護死體ノ搜索中タリシ

第二事變ノ狀況 該列車ノ機關車ニ乘組シ機關手ニ就キ取調ヘタルニ該列車ハ矢板縣發下り午後三時
五十六分ノ定期ニ後午後四時四十分矢板縣發下り午後五時頃常川ノ鐵橋ニ掛リシニ據テ強風タリ
シモ此時恰モ一陣ノ暴風左方即チ川上ヨリ列車ノ側面ニ吹キ當テ鐵橋ノ樑ノ中央ヲ通過セシタル
際（コック）ト異樣ノ響キノ機關車ニ傳ハリ列車ヲ以テ列車ヲ順ミシ早ヤハ二列車ハ顛落シテ橋下ニ
算ヲ亂セルノ狀ヲ見ルニ至レリト依之觀之第二箇目ニ於ケル列車ノ聯結上貨車ノ後ニ客車ヲ置キ且
客車中客車少クシテ重量ニ乏シキ一等二等車ヲ先ツ吹キ飛ハシ其軌道ヲ脫シテ顛落ノ際當時ニ落合
後ニ置ケル貨車ニ至リシモノハ如シ而シテ乘客ハ車體ノ粉碎セシ爲メ或ハ後方ノ車體同時ニ落合
ヘツ、五二粉砕スルニ至リシモノハ如シ而シテ乘客ハ車體ノ粉碎セシ爲メ或ハ後方ノ車體同時ニ落合
脱ケ出タルモノ出水當時ニ付送ニ押シ流サレ、ニ至リシ者多キニ追ヘリ其中倖存ニシテ中流ノ洲ニ
辿リ上リシ分ニ對シテハ橋上ヨリ繩ヲ垂テ負傷者ヲシテ之ニ依ラシメ以テ救ヒ場タルヲ得タリ

第三警察ノ手配 被害ノ當時野崎村駐在巡査鐵橋木亮久巡途中恰カ常川鐵橋ノ間近ニ來リシ時暴
風中ニ在テ矢板縣發下り列車ノ警部鐵橋通過スルニ際シ非常汽笛鳴ラサシメ其異常ナル時暴
察シ急キ現場ニ駐付ケタル第一二列記タル狀況ナルヲ以テ附近ノ人民ト共ニ被害者ノ救護ニ著
手スルト同時ニ一面急テ所轄大田原警察署長ニ報告シタルニ依リ同署長警部齊藤吉彌ハ巡査部長二
名巡査十名ヲ率ヒ急テ現場ニ出張シタルニ依リ先キ矢板警察署長警部佐々木清ハ巡査部長二名巡査七名ヲ隨ヘ現場ニ急
行シ大田原署長ト協力シ非常警備ヲ以テ召集シタル部部消防夫二百餘名ヲ指揮シ負傷者及死體ノ急
救及死體ノ搬送ニ著手シ負傷者ノ應急手當ヲ施シタルアルニ當リ當該處ヨリ派遣シタル參事官保安課長衛生課長
及縣立病院院長赤十字社本縣支部主事等一行到著シ衛生課長及病院院長赤十字社本縣支部主事等ハ
專ラ救護ノ任務ヲ擔ヒ保安課長大田原、矢板兩警察署長ト巡査部長以下ヲ部部シ夫々手配主事等ハ
警察官ノ不足ナルヨリ更ニ派遣方ノ電報ヲ以テ更ニ警察部ヨリ警部若林茂同角田長藏ニ巡査
十六名ヲ附シ現場ニ急行セシメ負傷者ノ救護死體ノ搜索遺留品ノ蒐集等諸般ノ取締ニ當ラシメ
タリ

第四救護ノ方法 縣立病院院長ノ率ヒタル副院長井上禮藏以下醫員四名事務員一名赤十字社支部主事ノ
率ヒタル書記一名看護婦六名ニシテ被害地ニ到著スルト同時ニ負傷者ノ手當ニ著手セシメ其多數ハ
野崎方面ニ收容シタルヲ以テ衛生課長ハ共ニ矢板縣長ニ談シ破損鐵橋ニ足場ヲ造ラシメ漸クニシテ
對岸ニ渡リ民家ニ宿所ニ收容シタル患者二十八名ニ對シテ不救致救急ノ手當ヲナシ負傷者ハ縣務課長
谷崎美彌ノ請求ニ依リ日本鐵道會社囑託醫師神野三郎ニ引渡シタルニ翌未明下流ヨリ更ニ三名ノ
負傷者ヲ發見シ及矢板方面ニ收容シタル患者八名ニ對シテ尙ホ夫々手當ヲ施シタルヲ以テ參事官

病院長及赤十字社支部主事ハ醫員二名看護婦二名ヲ現場ニ止メ八日午後一ト先歸シ二名ノ醫員ハ
發見セル死體ノ檢査ニ從事セシメタリ

而シテ前記患者ノ内三十六名ヲ臨時列車ニ搭載シテ宇都宮ナル縣立病院及神野病院ニ輸送スルニ當
リテハ宇都宮警察署警部中津川秀太ヲシテ巡査部長以下六名ヲ隨ヒ當地停車場ニ出張セシメ醫員ニ
談シ會社ニ於テ手配シタル醫師看護婦等ト擔架其他救護ニ必要ナル諸般ノ準備ヲ爲シ二同ノ輸送列
車ニハ巡査及醫員看護婦數名同乘夫々手當ヲ施サシメタリ

第五負傷者 負傷者ハ總テ四十四名ニシテ内三十三名ハ縣立病院二三名ハ神野病院二三名ハ大田原病院
ニ入院一名ハ宇都宮自宅ニ於テ治療中其住所別紙第一號ノ如シ

第六死體發見 被害ノ當夜ヨリ翌八日午前現狀若シクハ二三十町餘ノ下流ニ於テ死體ヲ發見シタル
ハ男八女四ニシテ其翌九日川西警察分署内那須郡湯津上村大字佐良土地内ニテ一女一同郡島山町地
内ニテ男二ヲ發見シタル其住所別紙第二號ノ如シ

第七死體發見 事變後引續キ提付燐火ニ依テ徹夜其翌八日午後六時頃巡査部巡査三十餘名ニ指揮セシ
メ矢板警察署大田原警察署兩部内ヨリ召集シタル消防夫四百餘名ニ依リ下流三里餘ニ涉ル佐久山附
近迄精密搜索ス尙其翌九日午前七時ヨリ前日同様ノ人足ヲ以テ更ニ第二同ノ搜索ヲ遂ケタリ

第八死體發見 檢査ノ起因ハ素ヨリ杜撰ヲ以テ定メ難キニ付事變ノ現場ヲ見ルヤ大田原警察署長ハ
直チニ大田原區裁判所檢事ニ急報シタルヲ以テ翌八日午前八時大田原區裁判所檢事代理小野得一
郎ハ書記ヲ隨ヒ現場ニ出張シ大田原警察署長齊藤警部ヲ補佐シテ死體ノ檢査ヲ遂ケタリ

第九警察官出張所 諸般ノ指揮及手配ノ主部トシテ常川鐵橋ノ傍ハラナル野崎村大字蒲葉榮藏所有
ノ家宅ヲ警察官出張所ト定メ警部長有川貞壽ヲシテ總テ兼管セシム

第十警察ノ取締 事變ノ翌朝ヨリ被難者ノ親族故舊其他見物人ノ打混シテ遺難場ニ群集スルモノ數百
名ノ多キニ及ヒ爲メ死體ノ見分ケ及ヒ檢事ノ檢査及修復並ニ被難者ノ物件蒐集等ヲ防害
スルコト甚タシキヲ以テ警部巡査二十餘名ヲシテ嚴重ニ其難路ヲ取締ラシメタリ

第十一被難者ノ物件 事變ノ現場及檢査上下流ヨリ得タル衣服履物所持品等凡テ被難者ノ携帶
シタルモノト燃料スル物件ハ警察官ノ指揮ニ依リ人夫ヲシテ悉ク警察官出張所ニ取調メ數名ノ巡査
ヲシテ汚濁ノ乾カサシメ且一品毎ニ札ヲ付ケテ物件登錄ヲ作ラシメタリ

第十二被難者ノ認識 負傷者ハ素ヨリ住所氏名ヲ判明スルヲ得ルモノ死體ニ至ツテハ判然スルコト難ク
爲メ檢査後之レニ番號ヲ付シ其死體ヲ町村長ニ引渡シ日本鐵道會社ハ町村長ニ交渉ヲ遂ケ町長
一々棺ニ納メ以テ宇都宮停車場ニ送り其親族故舊ノ尋ネ來ルモノヲシテ見定メシメ點アハス而シ
テ尙ホ警察官出張所ヘ取調メタル物件ヲ檢査シテ尙モ所持品ノ住所氏名ヲ認ムヘキ點アルヲ得タ
ルモノ十數件ニ及ヒシヲ以テ同所ヨリ直チニ其者ノ所轄警察署ニ對シテ被難者無ク取調方ヲ照會シ
タルニ雖ニ遺モノノ一人難ヲ免カレテ現場ヨリ直チニ歸宅セシモノ一人負傷者ニシテ入院中ノモノ
六名未タ何等通信ナキモノ數人ニシテ其他認識シ得ザルモノ六十點餘ナリ

第十三警察官引揚 諸般ノ手配一應終リテ告ケ且被難者ノ取調付ケモ済ミタルニ依リ十日午前
七時ヨリ事變現場ニ召集シタル警部五名巡査十三名ヲ三隊ニ分テ兩岸ハ步行シ川身ハ舟ニテ佐久山
附近三里餘ノ間更ニ第三同ノ警察隊組檢査ヲ遂ケ以テ其間ニ於ケル死體及物件ノ存在セサルヲ認メ同
日午後八時大田原警察署長及同署諸巡査部長巡査五名ヲ止メタル外出張ノ警部巡査一同引揚ケタリ

第十四遺留品ノ處分 事變後ニ於テ得タル物件ハ鄭重ニ一札ヲ付シ又之レニ遺帳ヲ添ヘ警察官
スヘキコトヲ廣告シタル故ニ爾來陸續見物者ノ來テ都合下附シタル分十數件ニ及フ其物件主ハ概ネ
負傷者ニシテ未タ死者及無難者ニ係ルモノナシ但シ廣告ノ尙ホ行ハサルニ依ルナルヘシ

負傷者
縣立病院入院者
栃木縣那須郡野崎村
同縣同郡高林村大字木綿畑二十三番地 田島 董
田代 善吉
同縣同郡那須村大字湯本 室井 ハツ
二十三年
武七
二十三年

神野病院入院者
栃木縣宇都宮市宿場町二十四番地 菊池
二十三年

栃木縣那須郡黒羽町大字豆田二十八番地	石堂 半三郎	五十二年
同 半三郎長男	石堂 初太郎	二十六年
同縣鹽谷郡矢板町大字富田六番地寄留工	野木 榮三郎	三十七年
同縣同郡矢板町大字土屋五十八番地寄留工	内田 實松	三十四年
同縣那須郡西那須野村大字新久三番地	鹽谷 源吉	五十五年
同縣同郡馬頭町	西山 新太郎	六十三年
同縣芳賀郡久下田町大字阿部品	小島 八重一郎	二十七年
同縣同郡同町大字同	飯塚 幸一郎	二十七年
同縣鹽谷郡矢板町大字土屋	三浦 竹三郎	二十五年
茨城縣那珂郡梁川村大字青柳百四十二番地	廣瀬 寛次郎	二十九年
同縣同郡同村大字同百五十一番地	廣瀬 宇太郎	二十一年
同縣水戸市市白銀町四番地	廣瀬 熊吉	四十年
同縣那珂郡梁川村大字青柳	廣瀬 源助	三十八年
同縣同郡岩瀬村	日向 覺治	二十六年
同縣眞壁郡下館町大字本成	川崎 喜一郎	二十六年
福島縣伊達郡伏黒村大字伏黒二十番地	杉浦 金四郎	三十二年
同縣福島町停車場在勤車掌	下山 源五郎	二十七年
同縣西白河郡矢吹村大字新田	阿部 牛次	五十年
同縣北會津郡神指村大字木下	武藤 一夫	二十九年

十月八日死亡

同 同

大田原病院入院者

自宅治療

第二號

死體

十月八日現場ニテ發見

同

山形縣西鶴岡郡北小國村大字舟渡百六十番地	梶木 庄五郎	四十九年
同縣米澤市新町四千六百三十五番地	竹島 與五郎	三十九年
同縣南置賜郡久保町大字久保田五百四十番地	内藤 久三郎	十八年
同縣東置賜郡小松町千四百七十一番地小學校教員	島貫 安五郎	十七年
埼玉縣入間郡坂戸警察分署在勤巡查	加藤 政之	二十三年
東京市下谷區南船荷町二十六番地車掌	黒屋 亥年作	二十五年
同神田區錦町三丁目四十六番地	吉野 伊太郎	二十三年
同下谷區櫻木町三丁目車掌	石井 常藏	二十七年
千葉縣香取郡神代村大字久保合	飯田 數藏	四十八年
鳥取縣日野郡山神村	山形 仙造	四十六年
栃木縣那須郡那須村大字高久	平山 銀太郎	四十年
茨城縣東茨城郡上大野村大字坪大野	軍司 兵之助	四十一年
福島縣雙葉郡大野村大字大河原	半ヶ谷 馨重	四十一年
栃木縣那須郡大田原町	若林 々々	二十八年
栃木縣那須郡大田原町	黒坂 金作	二十八年
同縣同郡同町	細浦 東策	二十八年
栃木縣宇都宮市大工町醫師	緒川 久馬四郎	二十八年
栃木縣那須郡野村大字槻澤	高松 胸次	五十七年
同縣同郡同村平三郎長女	高松 操	十四年

同縣同郡野崎村大字下石上二十八番地
長島 儀八
四十八年

同縣同郡同村同大字同番地
長島 タツ
二十年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

同縣同郡湯津上村大字佐良土地内ニ於テ發見
同縣同郡等根村大字上大貫六十四番地
印南 平七
三十七年

(五)明治三十二年十月七日等川汽車轉覆負傷者神野病院及宇都宮市縣立病院收容人容態書

同縣同郡大田原町五郎兵衛長女
若林 トク
當一年

年齡五十四歲 茨城縣東茨城郡上野村大字大野三十三番地
神野病院十月八日入院同日死亡
病名 腦震蕩症右顏面擦過傷前額打撲症

年齡二十九歲 同縣同郡柳川村大字青柳百四十二番地
神野病院十月八日入院
病名 左鎖骨外端骨折左膝關節擦過傷

年齡四十年 同縣同郡市上白銀町四番地
神野病院十月八日入院
病名 頭蓋中央部挫傷創長六仙迷深骨ニ達ス右前額部挫創六長三仙迷深骨ニ達ス右眼瞼眉直下長三仙迷挫創右眼内背脊右腕關節打撲症左手掌及背側擦過傷内側擦過傷

年齡三十八歲 同縣同郡柳川村大字青柳
神野病院十月八日入院
病名 左額頂部挫傷左額骨部擦過傷左右腕關節擦過傷右手掌挫創

年齡二十一年 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

年齡二十六歲 同縣同郡柳川村大字青柳百五十一番地
神野病院十月八日入院
病名 左額骨部挫創左胸骨擦過傷左膝關節擦過傷左肘關節擦過傷右腕關節擦過傷

菊地 竹七	年齡二十三年 栃木縣宇都宮市宿郷町二十四番地 病名 神野病院十月八日入院 右前膊中三分一打撲症左前膊擦過創下顎部打撲症左膝關節前側擦過傷及足背打撲症右膝下三分一擦過傷
石堂 半三郎	年齡五十三 同那須郡黒羽町大字豆田二十八番地 病名 神野病院十月八日入院 後頭部打撲症左膝關節打撲症左膝關節內側及足關節打撲症
石堂 初太郎	年齡三十二年 同長男 病名 神野病院十月八日入院 額面部打撲症右下顎鼻翼擦過傷右胸側部第七第八肋間部打撲症左肩胛擦過傷右膝關節打撲症左右兩足第跗趾擦過傷
平山 銀次郎	年齡四十年 同那須村大字高久黒磯驛ヨリ一里 病名 神野病院十月八日入院同日死亡 上口唇挫創左右前膊擦過傷右大腿骨骨折(上三分一、一部)
野本 榮三郎	年齡三十七年 同鹽谷郡矢板町大字富田六番地工夫 病名 神野病院十月八日入院 額面部橫切創左右眉間挫創左右胸側部打撲症右下腿前側打撲症
内田 寅吉	年齡三十四年 同矢板町大字土屋六十八番地工夫 病名 神野病院十月八日入院 右眼上眼瞼及眉毛部擦過傷右鼻翼擦過創左胸側部打撲症及左上膊三分一打撲症
鹽谷 源吉	年齡五十五年 同西那須村大字斷久三百五十三番地 病名 神野病院十月八日入院 額面部及後頭部挫創長三仙迷左肩胛打撲症左胸側部第一第二肋間部打撲症
西山 新太郎	年齡六十三 同馬頭町大字馬頭町長 病名 神野病院十月八日入院 額面部骨部打撲症第一指第二指擦過傷右肘關節後側擦過傷右大腿上三分一分一打撲症左膝關節內側打撲症左下腿下三分一打撲症右大腿上三分一後側打撲傷
小島 八重一郎	年齡二十七 同方賀郡久下町大字何部品 病名 神野病院十月八日入院 右前腰内外側打撲症左手背第三等擦過傷左大腿內側下三分一打撲症右膝關節背側打撲症
吉野 洋太郎	年齡二十三 東京神田區錦町三町目十六番地材木商 病名 神野病院十月八日入院 右腹骨部打撲症腰部打撲症左肩胛及打撲症左手第二指第三指擦過傷
飯塚 幸一郎	年齡二十五 栃木縣芳賀郡久下町大字何部品五十五番地 病名 神野病院十月八日入院 右前頭部ヨリ額頂結節部二走ル 大切創長十仙迷右眼眼蓋血腫骨部打撲症左大腿骨下三分一骨打
武藤 一夫	年齡二十九 東京市麹町區二町目六番地黒川内 病名 神野病院十月八日入院 額面部二仙迷切創左額部及耳輪二仙迷挫創鼻梁及鼻翼ノ擦過傷左肩胛部打撲症左第二指第三指擦過傷右肩胛部打撲症
三浦 竹三郎	年齡二十五 栃木縣那須郡親園大字親園八十一番地伴信一郎二男當時矢板町大屋 病名 神野病院十月八日入院 右額面部挫創其長四仙迷右肩胛關節部擦過傷胸推未端打撲症右膝關節擦過傷左足拇趾內上骨二走ル挫創
山縣 仙造	年齡四十六 鳥取縣日野郡山神村 病名 神野病院十月八日入院 右前頭部擦過傷右額頂部挫創左手前膊尺骨側部挫創左第六肋骨皮下骨折
飯田 數藏	年齡四十八 千葉縣香取郡神代村字久任ノ谷千四百九十四番地 病名 神野病院十月八日入院 右肋骨打撲症左肘關節打撲症

加藤 正行	年齡二十三 埼玉縣入間郡坂上警察署巡查 病名 神野病院十月八日入院 上眼瞼擦過傷左腿内外膝關節部打撲症及擦過傷右大腿內打撲症及右足附節部打撲症										
黒屋 亥年作	年齡二十三 東京上ノ車掌 病名 神野病院十月八日入院 後頭部打撲症頭蓋矢内絶合計道挫創長三仙迷深サ廿二達ス右拇指側打撲症右膝第二肋ヨリ腕關節ニ互ル打撲症左下腿下三分一一切擦傷										
下山 源五郎	年齡二十年 福島車掌 病名 神野病院十月八日入院 額面部及右後頭部各長四仙迷切創右肩骨部打撲症右肩胛部打撲症										
石井 常藏	年齡三十七 東京上ノ車掌 病名 神野病院十月八日入院 額面部及右後頭部各長四仙迷切創右肩骨部打撲症右肩胛部打撲症										
室井 ハツ	年齡四十三 栃木縣那須郡那須村大字湯本十一番地 病名 神野病院十月八日入院 左側拇指挫創右側下腿三分一各部全骨折										
田代 善吉	年齡二十四 同那須郡高林村大字木綿畑二十三番地教員 病名 神野病院十月八日入院 左眼上眼瞼挫創左頰中央部挫創										
田島 重	年齡二十五 同西那須村五百番地 病名 神野病院十月八日入院 左足背中部內側挫創左耳挫傷頂部挫創										
(六)明治三十二年十月七日中央氣象臺ノ發セシ警報											
明治三十二年十月七日午前零時											
四區五區ノ南部六區ノ海陸ヲ警戒ス											
而シテ同日午前六時ニ至リ大風ノ中心ハ深厚トナリツ、大島ノ東方ヲ通過シ九州四國ノ沖合ニ來リ南部ハ大雨連降北ノ暴風ヲ起シ琉球ハ北西ノ烈風雨歇ミ晴天トナル以上ノ實況ニヨリ											
同日午前八時											
六區北部七區ノ海陸ヲ警戒シ同時ニ四區五區ノ海陸ニ暴風雨ノ虞アルヲ報ス											
(七)明治三十二年十月七日暴風ニ際シ東京府下ノ被害警視總監ヨリ内務大臣ニ報告書											
暴風雨被害ノ件報告											
明治三十二年十月七日ノ暴風雨被害詳細取調候處別紙ノ通ニ有之候條此段及報告候也											
明治三十二年十月十日											
警視總監 大浦 兼武											
署名	人	家	屋	浸水	床上	床下	計	破損	延長	破損	延長
市部	町	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
芝	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
京橋	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
日本橋	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
神田	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
芝	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
麻布	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

明治三十二年十月十二日

保線課長事務取扱毛利重輔殿

行ヲ停止シタル當時同列車ニ乗込ミ居タル代議士鈴木萬次郎氏ノ東京地方裁判所ニ於ケル證言摘錄

明治三十四年二月二十日篠川事件ノ證人トシテ代議士鈴木萬次郎氏ハ東京地方裁判所ノ召喚ニヨリ出廷シ係リ判事ノ問ニ對シ證言セル所ヲ以テスハ明治三十二年十月七日午前十四時十分福島縣同日下午八時東京上野ニ著スルキヤリ車ニ須賀川ニ午後一時頃乘リ込ミ同日白河ニ所用モアリ同所ニ下車一泊翌八日上京スルキモ案ナリシガ最早白河ニ著シタル驛ノ風雨モ激シケレハ明日トナレハ或ハ鐵道ニ沿フ線路ニ故障ヲモ生シ汽車通過ノ程モ覺束ナキヨリ白河一泊ヲ見合セ乗車ノ儘上京セントシ自宅ニハ白河停車場ニ其旨通報シ而シテ驛原黑田ヶ原等通過ノ頃ヨリ風ハ益發烈トナリタルハ危險ナリトシテ追道下車シ乘客モハ下車ヲ求ムル事ナラン然ラフ限リハ危險ナラサルヘシト推斷シ心ニハ危懼ノ念ナキニアラサリシモ如何ニシテモ當日東京ニ至ラントノ夢案ナリシヨリ乗居リシカ黑磯ニ至ラントスル途申線路ノ傍ナル樹木ハ暴風ノ爲メ危險ナリハ列車ニ打付カントシ列車ノ動搖モ甚シカリシカ黑磯停車場ニ至レハ車掌等暴風ノ爲メ危險ナリハ列車ノ進行ヲ止ムル事トナセリ乘客諸氏ニハ下車セザレタシトノ事ナリハ早速下車同所ノ旅店ニ一泊スル事トシ旅店ノ時計ハ正二午後四時ヲ報スル時ナリシ云々

(十七) 帶川列車顛覆ノ當日午前十時四十分福島橋上リ列車ニ郡山ニテ乗込タル宮城縣志田郡古川町藤本吉太郎氏ヨリ(同日午後四時黒磯停車場ニ至リ列車ノ進行ヲ止メタルヲ以テ)顛覆ノ慘害ヲ免カレタル實況ヲ報セラレタル書面

以テ一昨三十二年十月七日暴風ノ際小生上京
ヲ以テ一昨三十二年十月七日暴風ノ際小生上京
ヲ以テ一昨三十二年十月七日暴風ノ際小生上京

車ニ乗換ヒ進行シタルニ此日朝來西風烈シカリシ殊ニ列車ノ風ヲ撲切ル方面ニ向ヒテハ暴風最上ノ列
ハ暴風汽車ノ側面ニ當リ非常ノ動搖ヲ起シ殊ニ阿武隈其他ノ橋梁ヲ過クル毎ニ暴風ヲ遮キルノ障礙物
其側面ニサキヲ以テ風ハ漸ク速度ヲ増シテ其横面ニ當リ幾度カ顛覆セザルヤノ感ヲ起シ冷汗膚ヲ
濡シタル事ニ御座候而シテ漸次進行致シ白河驛ニ至リシ頃ハ雨モ降り來リテシ儀リ且ツ風力ハ毫モ衰
ヒサルヲ以テ萬一ノ慮リ下車致シタル人モ有之候然レモ小生ハ急用ヲ帶ビテ上京ノ途ニ就キタルモノ
ナレバ尙ホ暴風烈雨歟マシテ眼ニ觸ル、柱大ノ樹木ハ地ヲムカルガ如ク撓ミ或ハ爲メニ挫折シタルモノ
我ノミニアラス尤モ貴重ナル人間ヲ搭載シタルモノナレハ其同行セシ客モ多クシテ其境遇ニアルハ單ニ
處ヲハ假令ヘ數百ノ乘客ヲシテ不利不便ヲ來タラシムルモ其危險ヲ豫メ避防スルノ策即チ相當ノ處置
處ヲ以テ他ノ乘客ハ共ニ汽車ノ進行ニ任カセ乗車シ居リタル次第第二有之候然レモ同日午後四時頃汽車
ハ黑磯驛ニ達セシ風力猶衰ヘ停停車場ハコレト沒スル許リ浸水シ風物何トナク儼然アリシカ驛
員ヨリハ何等ノ報知ナクシテ其儘停車場ハコレト凡ソ一時間許リ此時乗車客中何等ノ理由アリテ停車
シ居ルナト小言ヲ囁ラセシモノアリキ然ルニ二三ノ驛員來リ室毎ニ乘客コ向ヒテ言フ機御覽ノ通り
暴風未だ止マス且ツ夜ニ入りテ前路危険ノ程モ未知ルヘカラサレハ暫タ發車ヲ見合ハスヘキニ依リ
復迷惑シ得ル場合此汽車中ニ止リ休息スルモ宜シト告ケテ小屋ヲ入リ因テ止り得ス予ハ同停車場前ノ煙草屋ト
云フ旅店ニ逸ル乗合ノ客一人ト同宿セリ然ルニ同夜十一時頃ニ至リ宿主ヨリ一報アリ他ナシ是ハ同四
時頃下リ列車ノ簾川通過ノ際暴風ノ爲メ顛覆シタル數多ノ乘客生死不明ニ至レリトコトナリ愕然一驚
歟キ小生等ノ空シク停車セシメラレテ迷惑ナリト小言タラシナリシコトノ却テ幸福ト隣長ル人
ノ慘禍ニ逢ヒシノ交換ヒ予等ノ無事ナリシコトヲ喜ビシ程ニシテ此時乘客何レモ黑磯驛長ルノ措置
其當ヲ得テ數百ノ乘客ヲシテ無事安全ナラシメタルノ嘆賞致シタルモノ歟蓋シテ翌日前十時頃
便宜ノ汽車ニ搭シ椿川ノ檢狀ヲ親シク見ツ、上京ノ途ニ就キタル次第第二御座候宛ハ右當時ノ實況ノミ

明治三十四年十二月四日

菅野善右衛門

(十八) 常川列車顛覆ノ當日午前十時四十分福島發上リ列車ノ乘客中山
形縣西置賜郡西根村浦生平藏氏ヨリ同日午後四時黑磯驛ニテ暴
風ノ爲メ列車ノ進行ヲ止メ難ヲ免カレタル實況ヲ報セラレシ書
面

[illegible]

候ヘシカ豐原ヲ過クテ須ニ至リ激烈ナル暴風ト相成候黒田原中窪ヲ通ル時ハ殊ニ激シク木萱ハ倒レ家
園ノ轉覆スルモノアリアワヤ我カ汽車モ顛覆スルカト思フ事度々ニ候ヘシカ先ツハ無事ニテ黑磯停車
場ニ到著同所ニテ下リ列車ヲ暫クノ間待チ居リ候處下リ列車ハ箒川ニテ轉覆セシトノ報知有之候其時
モ未タ暴風激シク我カ汽車モ前途ノ安全圖リ難ク候故機關手ノ御注意ニテ午後四時下車致シ虎口ヲ
レシ心地シテ當所ニ一泊翌日午前八時 分同地ヲ發車シ野崎迄乘車箒川ヲ徒歩スル時昨午ノ暴風
轉覆サレシ列車ヲ取上ケ最中ニテ負傷者ハ天幕ノ内ニアリテ實ニ悲惨ノ狀ヲ示セリ私共亦至辛ニモ
車ノ爲メニ大難ヲ迭レ川向ヨリ乘車シ無事東京上野停車場ニ午後五時到著小松屋旅館ニ宿泊致シ候御
急用早速御返事申上ヘキ處私他出不在中ナリシ故斯ク迄遲延致シ候右不意思召被下度偏ニ奉懇願候先
ツハ御返事ノミ早々

明治三十四年十二月九日

菅野善三新川業

山形縣西置賜郡西根村大字河原澤

蒲生 平藏

(十九)中央氣象臺ノ箒川

二對スル證明書

内ノ班

御承知相成度此段及同管候也
 八詳細ノ觀測ナキヲ以テ確鑿致シ兼候（共近傍測候所ノモノヲ以テ推察スレハ左ノ如クニ有之候間有
 客月十八日付ヲ以テ明治三十二年十月七日暴風雨之體ニ付管間合ノ趣ヲ承然モ處所多變谷兩郡ニ於テ
 大詳細ノ觀測ナキヲ以テ確鑿致シ兼候（共近傍測候所ノモノヲ以テ推察スレハ左ノ如クニ有之候間有

明治三十四年二月八日

中央氣象臺印

第一問ノ答 礪波縣須賀谷兩郡に於テハ風速度ハ一秒時間十米（強風）以上ニ達シタルヘク又強風以上ノ速度ヲ以テ吹初メタルハ七日正午以後ナルヘシ

第二問ノ答 同日ノ低氣壓ヨリ生シタル風ノ東京以北ニアリテ強風以上ヲ吹續セシハ凡六時間（但第三問ノ答 那須鹽谷兩郡邊ノ風向ハ概シテ北西ナリシナラン

第一問ノ答 那須鹽谷兩郡邊ヲ吹キタル風モ本臺ニ於テ生シタル暴風警報ニ對スル低氣壓ノ影響ニ依リモノナリ

(二十)日鐵會社技術未熟練者ヲ使用シ
十二年十月七日顛覆列車込車掌見習黒屋亥年作履歴

東京市下谷區上車坂町五番地士族

嘉慶 少年作
明治八年一月二十

明治十六年十月ヨリ埼玉縣浦和公立小學校へ入學、二十年三月尋常小學卒業、二十四年三月ヨリ栃木縣若船高等小學校入學、二十六年十月高等三年生ニテ退校ス、二十七年五月十六日上野鐵道停車場驛騾車ヲ用夫ニ採用、二十九年二月十七日電信手ノ拜命、三十二年八月二日改札兼電信手拜命、三十二年九月四日車掌見習兼改札電信手拜命、三十一年四月十五日ヨリ給金四十鎊、右該年作ノ履歴ヲ閱スレバ明治三十二年九月四日車掌見習兼改札電信手拜命トアリテ車掌見習ヲ命セシヨリ僅カ一箇月ト三日ヲ經タル當日即チ十月七日顚覆列車前部車掌ノ職ヲ掌トラシメ數多人ノ人命ヲ殺傷セリ所謂醫學生徒ニシテ診斷治療法ヲ知ラサルモノニ患者ノ治療ヲ爲サシメ人ヲ殺シタルモノト敢テ異ナルコトナシ

(二十一)明治三十二年十月七日蕨川頰裏列車ニ乗入ミタル宇都宮稻川

病院長 絹川久馬四郎氏ノ書簡

拜復如貴命未得拜候得共御書翰ノ趣キ具ニ拜讀仕候處不圖モ梓川遺難ノ件ニ接シ未タ肌ニ粟ヲ生スルノ思ヒニ御座候承候ヘハ御賢息文次殿御乗合ノ趣キ具ニハ御遠達之由轉々感涙ニ咽ビ筆ヲ取ルモイタラシキ次第ニ御座候誠テハ貴命ニ從ヒ各項ニ由リ御同答ハ申候得共自分微都合ニ由レハ四五日内ニ出京致度見込ニ付其際ハ御尋申上様ノ實況ヲ申述度心算ニ御座候

第一答
宇都宮發車ハ定刻二時五十分ノ處上リ列車遅レタル爲メ五十分程停車致候定滞シテ三時四十分發車ス
第二答
片岡矢板ヲ通過スル際ハ烈風劇雨言ハシ方ナシ時々天蓋ヲ吹キ飛ハシタリ矢板ヨリ五六町ヲ距ル處ニ於テ隧道ヲ通過致シ間モナク岩石ノ切通シヲ經テ梓川ニ達スルト同時ニ凄マシキ烈風音ヲナシテ汽車ノ機窓ヲ吹キ貫キ輕キ箱ヨリ先キニ落チ始メタリ其狀態名狀スヘカラス
第三答
轉落ノ時間ハ四時十分頃ニ傾倒ニ倒レ聲カレ風雨ノ音波ノ音汽車ノ牽タ落ツルノ音同時ニ來テ何トモ言方ナキ凄マシキ思ヒニ候水中ニ埋レテ汽笛ノ臨時吹キヲ耳ニ入ルキハ最早地獄ハ此處カト思ヒ居候」
先大略如此ニ御座候拜復ヲ得ハ悉ク御物請仕候拜答草々
十一月二十四日
菅野善右衛門 殿
絹川久馬四郎

(二十二) 常川鐵橋上ヨリ列車顛覆スルヲ目撃セシ栃木縣那須郡野崎村
稻見ハナ女ヨリノ信書
拜啓仕候陳者此度ハ御書狀ニ接シ拜讀仕候處昨年十月七日常川鐵橋ヨリ汽車顛落シタル概況御尋ニ之アリ候ヘ共野崎鐵橋ハ未タ貴君ニハ一面モ之ヲ知レ候ヘ共其當時ノ概況左ニ
一昨午十月七日二時前ヨリ大雨ニテ午後三時頃ヨリ雨ヤミ風トナリ三時三十分頃ヨリ大風ト相成リ
一當時野崎鐵橋ニ差掛リタル時分ハ四時三十分頃存セリ候
一當時野崎鐵橋ヨリ三百間程離レタル水車ニ差掛リ風力ノ甚シキ爲メ家ノ内ニ居ラレズ子供ヲ買ヒ屋外ニ佇ミ居タル處前記ノ刻限ニ汽車ハ該橋ニ差掛リ二ツノ汽鐘ノ煙ニテ後方ノ車ハ見ヘヌ有様ニ候其中汽車ハ鐵橋ノ七分目邊通過シタル時頃連綿ト中頃ヨリ顛落シ次第ニ後方ノ車ノ落チタルキ然レトモ向ホ進行シ居ル故顛落ヲ知ラサルコトカト聲ヲ限リ呼ハリ鐵橋踏切迄參リタル一野崎ハ餘リ鐵橋ト接近シ居タル爲メ其他樹ノ倒レタルコト更ニ相分ラヌ跡ニテ聞ケハ汽車顛落前後ニ倒レタル木モ澤山アリトコト
一當地方ハ常ニ風ノ烈シキ處ニハ候ヘ共昨年十月七日ノ如キ大風ハ明治十一年ニ之アリタルカ免ニ角先ツハ御返事ノミ左ニ申上候早々頓首
十二月四日
福島縣伊達郡福田村
菅野善右衛門 殿
栃木縣那須郡野崎村大字下石上
稻見 ハナ

(二十三) 明治三十二年十月七日常川列車顛覆前ニ於ケル同地方暴風實況ニ關シ栃木縣關佐平氏ヨリノ送信
仰越ノ通未得一面識候得共益御清詳之段迄三奉復候然レハ去年十月七日暴風ノ爲メ汽車顛落之顛末御照會ニ付左ニ御同答ニ及ヒ候
一當日午後三時頃暴風益相加ハリ四時頃私本家關留五郎ノ家屋覆壓セラレタリ
二現落場所ヨリ距離七町位土屋學校ノ柿木五尺五寸位ニ三尺位位ニ二本吹倒サレ
三現場ヨリ距離二十五町位上土屋平吉屋敷山松目通五尺位一本四尺四寸杉木二尺五寸一本壓倒サレ何レモ同日四時頃ノ事ニ御座候
其他些々タル屋根モ破壞シタル又ハ土塗ヲ拔カレタル環種々之アリ候得共堅固ナル立竈ニナラサルモノハ相省キ御同答ニ及ヒ候尙ホ亦詳細ノコトハ後郵ニ譲リ早々頓首
十二月十日
菅野善右衛門 殿
栃木縣鹽谷郡泉村大字山田
關 佐平

(二十四) 明治三十二年十月七日常川列車顛覆前ニ於ケル同地方暴風實況ニ關シ栃木縣八木澤藤次郎氏ヨリ第一ノ送信
拜復御同然未接候處貴所益御健勝ニ國家ノ爲メ御盡精遊ハサレ候由誠ニ感佩ノ至ニ奉存候儀ア昨年十月七日日本鐵道會社ノ客車數輛我カ地等川鐵橋上ヨリ顛落シ數多ノ死傷者ヲ出シ同胞ニ悲歎ヲ與ヘシハ申迄モナク實ニ筆紙ノ及ボ所ニハ之ナク候之レカ爲メ貴所初メ皆々機嫌々々御調査アラセラレ候事ハ紙上ニ多少承知致シ居候折柄當日ノ模様等懇々御問合ニ相成早速小生記憶ノ處左ニ御報知申上候
明治三十二年十月七日ハ朝來午前一時ヨリ小風雨吹キ始メ漸然風力ヲ増シ三時頃ヨリ四時二掛テ全ク非常ナル暴風ニ相成自家ニハ損傷之ナキモ家モ覆ルハカリト思ヒ候土屋學校ハ庭續キニテ接近致シ居候該校ノ柿木(五尺餘)風ノ爲メ吹キ折ラレタリ由ナリ(時間ハ四時十分頃)小生其所ニ至リ見居ルコト十分即チ四時二十分頃ニ思ハシク下リ列車ハ通行早キコトヲ聞ケルハ如ク又車輪ハ地ニ付カサルカ如クニ見ヘタリ忽チ梓川ニ掛ラントスルヤ汽笛ノ聲多シク鳴リ居ルハ汽車顛覆ノ大事ナリトノコトニテ小生モ仕度致シカケ付キタルハ四時四十分頃ナリト思ヒ候以上亂筆ヲ以テ略記御返事早々
十二月十六日
福島縣伊達郡福田村
菅野善右衛門 殿
八木澤藤次郎

(二十五) 明治三十二年十月七日常川列車顛覆前ニ於ケル同地方暴風實況ニ關シ栃木縣八木澤藤次郎氏ヨリ第二ノ送信
拜復貴車顛覆事件ニ付又候御照會ノ件正ニ承知仕候土屋學校倒柿木ハ御推察ノ通り勿論周圍五尺ニ御座候該木ハ中央少々朽チ居候得共サマテ正ニ無之地土四尺程ノ處ヨリ吹キ倒サレ近家八木澤幸三郎氏宅ノ軒ニ掛リテ倒レタリ該木ハ只今薪トナリ其株殘リ居申候御承知ノ通り當地方ハ風ノ名物ニシテ年々多少ノ烈風ハ有之候得共斯様ノ事ハ少カリシカ當日ハ意外ノ暴風ニテ今人ノ口唱スル處ニ御座候尙ホ現場ハ小生外ハ十四五人モ居合セタルカ如クニ御承知相成リ候儀御問合ニ有之候處開ハ何人ノ御通報カハ知ラス或ハ小生等時ヲ同フセサルカカモ知ラス實際柿木ハ吹キ倒サレタリ中ニモ八木澤直三郎氏ハ同人ノ兄ノ爲メ(十歳)獨身(十三歳)兩人暴風ノタメ半熟柿ノ見事ニ落ラセ拾ヘ取ラント同場ニ行キタルヲ父兄ハ聊カモ知ラサリ柿木ノ倒レシ物音ニ風ト彼方見シニ驚キハルモノノ校壁ニ必死ト抱キ附キ居リシヲ見シモ爲メカシカ木ノ倒レハ無論壓倒サレタリト思ヒ夫婦ハアテ、壓倒付タル處幸ニモ玄關中ニ驅込ミ居リ生命ニ別條ナキヲ得安心シ婦ニ連レ歸ラシメ共ニ柿木ノ事壓及ヒ暴風ノ談話ナシテ斯ル日ハ汽車ヲ如何ナルモナラヘカナト談シ此時淺野武平氏八木澤幸三郎氏合セタルハ以上ノ四氏ハ有之候間左ニ御了承相成度小生ハ素ヨリ實際ノ事實ヲ御返事申上候儀ニテ彼ノ訪問ヲ受ケテ事實ヲ追道ヲ圖ル處漢ニハ無之候間左ニ依レハ會社ノ爲メ輕々機嫌々々報スルモノ出來候由聞及ヒ申候道ハ他事ニ涉リ候ヘハ敢テ贅辭ヲ不費候先ハ御賢察ニ任セ申候(同氏モ其レヨリ用意ノ荷ナラト數本取出シ居宅及ヒ長屋ニ張掛ケ防禦致シ居候時八木澤幸三郎氏(栃木ニテ被害者)養子平吉氏(三十歳)ナル仁三間梯子ノ借用ニ參ラレタル故實シ與ヘシ處如何ニモ長大ナル故一ニアハ中々始末ニ苦シム故手ヲ借りタリト言ハレシモ自宅防禦力先一ナルハ差支ヒノ旨ヲ答ヘ養父幸三郎氏ハ居ラサルヤト問合セタル處不在故今風ノ爲ニ破ラレタル壁ノ處ヲ手入セシ爲メナリト答ヒ持チ行キタリト此ノ括弧内ハ直三郎氏ノ直話ニテ實際ノ事ニ御座候
以テ御移シ申上候
追自土屋學校訓導ノ話ニ因レハ藤田佐太郎ト云フ者ノ案内ニテ辯護士石田仁太郎補原經武(以上宇都宮住)ノ兩人參ラレ當日ノ模様ヲ問ハレタル由
時日ハ十一月三日ナリ何レノ依頼カハ知ラサレト聞カマ、ニ
兩人ハ八木澤幸三郎氏ヲ訪ハレタル由
三十三年十二月二十八日
菅野善右衛門 殿
八木澤藤次郎

(二十六) 常川事件損害要償訴狀(東京地方裁判所ニ提出セルモノ)
常川事件損害要償訴狀
原告
福島縣伊達郡福田村大字羽田平民
菅野善右衛門
被告
東京市東橋區築地二丁目十四番地辯護士
磯入 太輔
右訴訟代理人
同市同區西紺屋町辯護士
岸本 辰雄
同上
同市神田區裏神保町辯護士
齋藤 孝治
同上

[illegible]

キハ脱線ノ原因タルコトモ通信省ノ明言スル所ナリ是レ控訴人ハ方サニ爲スヘキ注意ヲ爲サリシ
モトス

第四 矢板ハ前後ニ小山ト繁茂セル森林アリ壁道ヲ出テテリ切制ニ到ル迄ノ間凡ソ十町ノ距離アリ其
切制ヲ出テテリ直ニ小山ト繁茂セル森林ニ掛ルモノニシテ五町餘ノ川幅殊ニ那須原ニ連ルヲ以テ一モ風力ヲ支
フルモノナク平素ト雖モ風ノ強キ所ナリ故ニ少シク注意シタルニハ當日如何ニ暮川橋上ハ風ノ強
カリシヤノ點想スルコト得ヘシ殊ニ壁道ト切制トノ間通過ノ際ハ一層強カリシヲ以テ少シク注
意シタルニハ此所ニ於テ一時停車スルコト又徐行スヘキ警告ナリ然レニ停車スルコトハ徐行ヲ爲サ
ス輕々切制ヲ通過シ機關方ノ橋上ニ差掛ルヤ猛烈ナル暴風ニナルコトヲ知リタルニモ係ハラス尙ホ
停車セシ急遽力ヲ以テ進行シ遂ニ橋ノ中ハ至リ壁道ヲ越タルハ疎虞慮意ニアラスシテ何ソヤ

第五 其機關車スルヤ一人モ乘客ナカリシ一等客車先ツ機關車ヲ付テ其後ニ二等三等ノ客車順次シ登
貨車機關車二輛ハ順次セリ當日ノ列車ハ二箇ノ機關車ヲ付テ其後ニ一等客車一箇ノ貨車ヲ列シ次
ニ七輛ノ客車ヲ付テタルモノニシテ乘客ハ總計六十四人ナリ元來暴風ノ際ハ車體ヲ重クスル爲メ
ニ長連結ヲ短連結ト爲シ乘客ナキ列車ハ之ヲ取除スヘキモノナルニ之ヲ爲ササル爲メ乘客ナキ一
等客車ヨリ先ツ順次シ之レカ原因トナリテ客車悉ク順次シ機關車貨車ノ順次セサルハ即チ車體重キ
キハ順次シテ防テシ證ト爲スルヲ得ヘシ

第六 當日ハ野崎矢板共其地方一般ニ午後三時頃ヨリ風起リ漸次強風ト爲リ四時半頃ヨリ殊ニ甚タシ
ク汽車順次セサル前ニ於テ既ニ屋根ヲ割キ樹木ヲ倒シタリ故ニ此兩縣長共少シク注意ヲ爲シタル
ニハ矢板ニ於テ出發ヲ止ムルコトヲ得ヘク又野崎縣長モ暴風甚シキカ故ニ進行ヲ見合スヘシトノ電
信ヲ掛ケ得ルノ時間之レアリ然レニ之ヲ爲ササルハ遺憾ナリ

第七 暮川ハ地勢上常ニ風力ノ強キ所ナリ故ニ鐵道ノ如キ危險ノ營業ヲ爲サントスルモノハ豫メ危險
第七 暮川ハ地勢上常ニ風力ノ強キ所ナリ故ニ鐵道ノ如キ危險ノ營業ヲ爲サントスルモノハ豫メ危險
第七 暮川ハ地勢上常ニ風力ノ強キ所ナリ故ニ鐵道ノ如キ危險ノ營業ヲ爲サントスルモノハ豫メ危險
第七 暮川ハ地勢上常ニ風力ノ強キ所ナリ故ニ鐵道ノ如キ危險ノ營業ヲ爲サントスルモノハ豫メ危險

第八 鐵道ハ船舶ト同一ナル危險ノ業務ナレハ之レ機關方車掌等ハ一定ノ學識ト技術上ノ熟練トヲ具
ヘサルヘカラス然レニ當日乘込ノ機關方西村重吉車掌黒屋亥年作車掌下山源三郎同石井常藏等一定
ノ學識ト技術ヲ具ヘス即チ此等ノ者ヲ使用シタルハ會社ノ過失ナリ(西村ハ火夫ヨリ機
關方ト爲ル黒屋ハ見習中然カモ一ヶ月ト三日ノ見習ナリ下山ハ二月ノ見習ナリ石井ハ二十五日間
ノ見習ナリ)

第九 當日ノ列車ニハ「バキウムブレ」キヲ備ヘ付ケス此器械ハ非常變ノ際直チニ汽車ヲ停車セシ
ムルコトヲ得ルモノニシテ東海道線山陽線其他長距離ノ鐵道ニハ之ヲ備付ケサルハナシ然レニ之ヲ
備付ケサル爲メ脱線後數十間ノ進退セシメ難シタルハ過失ナリ

第十 假リニ控訴人ノ言フ如ク一部のノ風力トセシテ五十分進退セシメ定刻通り該橋ヲ通過シタルニハ
此ノ災害ニ控訴人ノ言フ如ク一部のノ風力トセシテ五十分進退セシメ定刻通り該橋ヲ通過シタルニハ
此ノ災害ニ控訴人ノ言フ如ク一部のノ風力トセシテ五十分進退セシメ定刻通り該橋ヲ通過シタルニハ

第十一 假リニ控訴人主張ノ如ク丘陵壁道及切制等ノ爲メ風力ヲ減スルコト少ク切制ヲ出テテ隔
猛烈ナル風力ニ襲ハレタルモノトスモ控訴會社ノ使用人ハ疎虞慮意ノ實ヲ切制壁道丘陵等ノ間ニ於
テスル上ヨリ比較的少キ風力ニハ二感シタルニハ鐵道ノ使用人ハ疎虞慮意ノ實ヲ切制壁道丘陵等ノ間ニ於
テスル上ヨリ比較的少キ風力ニハ二感シタルニハ鐵道ノ使用人ハ疎虞慮意ノ實ヲ切制壁道丘陵等ノ間ニ於

第十二 控訴人ハ第一審ニ於テ認メタル如ク注意ヲ怠ラシコトヲ證明スル責任ハ對手人ニ在リ故
ニ其證明ノ充分ナラサル以上ハ商法第三百五十五條民法七百十一條私設鐵道條例第三十八條ニ依リ損
害賠償ノ責ヲ免ルヲ得ス又發着時間ハ運送契約ノ條件ナルコトハ私設鐵道條例第三十條新ノ鐵道
營業法第七條ヲ見テモ之ヲ知ルコトヲ得ヘク又中央氣象臺ノ警報ヲ知ラスト云フヲ得ザルコトハ
文部省官制第五條第六明治三十一年勅令第四百八號及ハ警視廳ノ取扱ニ依テ之ヲ知ザルコトハ
ヘク又一旦其第ノ檢査ヲ受ケテ營業ヲ許サレタルモノト雖モ其認可ヲ與ヘタルハ營業ヲ爲シ得ルコト

官報號外 明治三十四年十二月二十七日 衆議院議事速記第五號 質問ニ關スル參考書

トニ付テノミ認可ヲ與ヘタルノミ其營業ノ結果人ニ損害ヲ與ヘタル點迄ヲモ免除スルノ意味ニアラ
ルヲ得ス

右答辯候也

東京控訴院
民事第二部御中

被控訴代理人 鹽入 太輔

(三十二) 暮川事件ノ控訴口頭辯論

明治三十三年十月二十九日午後一時東京控訴院民事第二部小山裁判長ノ係リニテ口頭辯論ヲ開カレ
タリ被告會社訴訟代理人ハ「原裁判ノ全部ヲ破毀ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス」ト裁判アリタシ又
原告訴訟代理人ハ「本件控訴ハ之ヲ棄却ス」ト判決言渡アリタシ何レモ一定ノ申立ヲナシ又原告
訴訟代理人ハ事實ヲ申立テ申立タルモノハ明治三十三年十月七日暮川鐵橋上ニ於テ被告會社ノ汽車
順次シ二十名ノ死者ト四十餘名ノ負傷者ヲ出シタル慘事ニシテ當時原告ノ長男モ災難ニ罹リタル一人
ナリ而シテ本件ニ就キ被告會社如何ナル禍患アリシヤト云フニ同日非常ナル暴風雨ニテ其第ノ警
報アリシニ拘ハラス被告會社如何ナル豫防モナサシメタルハ遺憾ナリ一ナリ矢板縣ニ著
タルヨリ間モナク風力愈々加ハリタルニ前途ノ危險ヲ慮ラスシテ發車タルハ遺憾ナリ一ナリ矢板縣ニ著
タルヨリ間モナク風力愈々加ハリタルニ前途ノ危險ヲ慮ラスシテ發車タルハ遺憾ナリ一ナリ矢板縣ニ著
タルヨリ間モナク風力愈々加ハリタルニ前途ノ危險ヲ慮ラスシテ發車タルハ遺憾ナリ一ナリ矢板縣ニ著

(三十三) 暮川事件控訴中日鐵會社ノ鑑定申請事項

日鐵會社ノ鑑定申請事項
一 汽車速力ノ緩急ニ依リ風壓ニ對スル汽車ノ安定力ニ如何ナル差異ヲ生スルヤ及其差異ノ程度殊ニ其
安定力ノ差異ノ爲メ危險防禦ノ手段トシテ汽車ノ進行ヲ停止メ又ハ之ヲ徐スヘキ實際上ノ必要アリヤ
一 汽車鐵橋ノ桁梁ノ設計日目的及放用如何

(三十四) 日鐵會社ノ鑑定申請事項ニ對スル評論

風力強暴トキ列車運轉ニ對シ停車ノ餘行ハ減車ノ列車配置轉換機關節用等防禦方法ノ規則ハ屢々違セ
レ且ツ實行サレテアリ現ニ明治三十二年十月七日午前十四時四十分福島發上リ列車ハ同日午後四時
磯原ニ於テ風力強暴樹木倒シ家ヲ破ル等ノ現狀ヲ見テ前進ノ危險ヲ慮リ列車ヲ進行ヲ止メテ以テ順次
災害ヲ免レタリ又明治三十三年九月二十八日ノ暴風ニ際シ東海道鐵道列車ハ時ニ或ハ停車シ時ニ或ハ
徐行シ定刻ヨリ約七時間運延シテ著新シテ以テ順次防禦線等ノ災害ヲ免レタリ然レニ明治三十三年七月
日午前十一時上野ヲ發シテ下野ヲ行ク列車ニ限リテハ樹木倒シ家ヲ破ル等ノ災害ヲ免レタリ然レニ明治三十三年七月
等ノ規則實行ヲ遵守セザリシ結果トシテ設備不完全ナル而モ無欄干ノ暮川鐵橋上ヨリ客車八臺ヲ順
覆セシメテ以テ數十人ヲ殺傷シタル夫レ暴風中汽車ノ進行ヲナサスルハ其設備稍々完全ニ近キモノニアリ
テ架橋上ニ於テ汽車順次セシメモ欄干ノ支拂所トナリテ順次防禦線ノ慘狀ヲ免レタルコトアリ
天龍架橋上ニ於テ汽車順次セシメモ欄干ノ支拂所トナリテ順次防禦線ノ慘狀ヲ免レタルコトアリ
天龍架橋上ニ於テ汽車順次セシメモ欄干ノ支拂所トナリテ順次防禦線ノ慘狀ヲ免レタルコトアリ
天龍架橋上ニ於テ汽車順次セシメモ欄干ノ支拂所トナリテ順次防禦線ノ慘狀ヲ免レタルコトアリ

ノ必スシモ右ノ鑑定ヲナシ得サル程ノ幼稚ナルモノトハ信シ得サルナリ此ノ鑑定タル恰モ火ノ爲メニ
焼失セシ家屋ヲ見テ夫レハ過ルハ家屋等ヲ焼タレタルハ故豫メ消防設備規則ナルモノアルニモ拘
ラス紛乎トシテ之レヲ無視シ人ニ問フニ火ノ家屋等ヲ焼失セシタルモノナリヤ否ヤト云フカ如シ常識
ヲ有スルモノ誰レカ之レヲ答辯ニ躊躇スルモノアラシク然ルニ之レヲ曖昧漠糊ノ中ニ葬ラントスル
異人アラハ誰レカ其動作ヲシテ怪マサント欲スルモ豈ニ夫レ得ヘケンヤ

(三十五)學者ノ無責任(時事新報所載)

辯護士 鹽入 太輔

予ハ公平ナル時事新報記者ニ訴ヘントス今尙ホ世人ノ記憶ニ存スル明治三十二年十月七日日鐵會社ノ
列車ガ終川ニ於テ顛覆シ數十名ノ死傷者ヲ出シタル事件ニ就キ予カ信用スル時事新報ハ終始一貫ノ筆
ヲ以テ能ク其真相ヲ穿テ復タ開然スル所ナカリキ故ニ予ハ日鐵ニ對シテ訴訟ヲ提起スルニ當リ時事新
報ヲ以テ裁判上ノ證據ニ供シ第一審ニ於テハ幸ヒニ原告ノ勝訴ニ歸スルニ至リタルニ被告會社ハ更ニ
控訴シ及ヒ東京控訴院ニテハ本年四月中原被兩造ノ申請ヲ容レ工學博士井口在屋同畑精吉郎 理學士和
田雄治ノ三氏ニ鑑定ヲ命ジ三氏ハ宣誓ノ上ニ於テ承諾シタリ然レニ爾來七箇月ヲ經過スルモ未タ何等ノ
鑑定報告ニ接セス元來暴風雨ノ警戒アル時ニ於テ汽車運轉力ニ關シテハ去ル三十二年中運輸部長平
井晴二郎汽車部長畑精吉郎兩氏ノ名ヲ以テ官設線ニ對シ左ノ達シヲナシタリ
一風力強暴ニシテ前途運轉危險ト認ムルトキハ列車ノ出發ヲ見合セ前途線路異狀ナキコトヲ確メタル
上出發セシム可キコト
一列車ノ數ヲ可及的減少スルコト
一「テック」附五十人乗客車ハ連結セサルコト
一運轉事務所長ニ於テ運輸部長ヨリ警報ヲ受クルニ先立チ天候不穩ノ兆アルコトヲ知得シタルトキハ
各驛ヲ警戒ス可シ
是レ逡信省カ多年ノ經驗ニ依リ定メラレタル規則ニシテ畑氏モ署名者ノ一人ナリ故ニ日鐵會社ノ鑑定
ニ就テハ此規則ニ依リ直ニ斷案ヲ下スコトヲ得ヘキ筈ナリ尤モ畑氏ハ逡信省ノ官吏ニシテ逡信省ハ鐵
川事件ハ日鐵會社ニ過失ナシト斷定報告シタルモノナレハ今更反對ノ鑑定報告ヲナシ得サルヤモ知ル
ヘカラサレトモ彼レトモ此レトモハ別ニシテ宣誓ヲナシタル以上ハ自分ノ署名シテ發布シタル規則ニ從フ
ハ當然ナリ又和田雄治氏ハ氣象學ニ就テハ比ヒナキ學者ナリト開ク井口在屋氏モ亦鐵道學ニ在テハ大
學ノ教授ニシテ比ヒナキ學者ナリト開ク然レニ此三氏カ七箇月ヲ經過スルモ未タ鑑定ヲ終ル能ハスト
ハ何タルコトゾヤ工學博士畑精吉郎著書ニ依レハ鐵橋勾欄ノコトヲ誤テ詳ナリ即チ勾欄ヲ堅牢ナ
ラシメ橋上ニ「カドレール」ヲ敷設セハ列車脫線スルコトナク假令脫線スルモ墜落ヲ防クコトヲ得
シト云ヘリ南氏モ大學ノ出身ナレハ帝國大學ニ於テハ既ニ研究シアルヘキ筈ナリ近時予輩ニ類々告
ルモノアリ日鐵會社ハ鑑定人ヲ買収シテ鑑定人ニ依テ事件ヲ握リ演サントノ計畫ナリト予之レヲ信
ス三氏共名譽アル學者ニシテ一人ハ帝國理科大学ヲ代表シ一人ハ中央氣象臺ヲ代表シ一人ハ鐵道作
業局ヲ代表スル當今ノ學者先生ナレハ假令如何ニ日鐵會社カ計畫スト雖モ之ニ應スルノ理アラシキ
鐵道モ亦斯ル卑劣ノ行爲アル可シトハ信セサルモノ學者ノ面目トシテ鑑定ノ命ヲ受ケナカラ何時迄モ
之ヲ報告セサルコトハ不都合ナリト思考ス然レモ學者ノ如キ我國鐵道開ケテ以來始メテノ出來事ニシテ
人ノ一日モ早ク其解決ヲ渴望シ居レリ又此解決ノ結果ニ依テ人々ノ生命財產ヲ保護スル上ニ於テ鐵
道ヲ改良スル上ニ於テ非常ナル影響ヲ來スモノナリ有名ナル足尾銅毒事件スラ其鑑定事項ハ一箇月ヲ
出テシテ報告セラレタリ抑裁判上ノ鑑定ハ判決上ニ必要ナルカ故ニ之ヲ命スルモノナレハ鑑定報告
ル迄ハ其審理ノ進行ヲ爲ス能ハス右三氏ニシテ此鑑定ニ三年五年又ハ十年ヲ經過スルモ報告セザランカ
訴訟事件ハ判決ヲ見ルコト能ハス當事者ノ迷惑ハ尙ホ忍ブ可シト雖トモ學者カ集リテ是レ丈ケノ鑑定
ヲ報告スルヲ得ストモハ帝國大學ノ有スルモノナリ是レ博士ノ稱號ヲ與ヘラレ世人ハ尊稱セラル所
以ナリ然レニ其疑問ヲ解決セス剩サヘ訴訟當事者ノ裁判所ニ迷惑ヲ掛クルニ至ッテハ全ク其責任ヲ盡
サハルモノト言ハサル可ラス若又數月ヲ熟考スルモ鑑定スルヲ得サランカ遠慮ナク其囑託ヲ辭シテ可
ナリ自分ノ學力ニ於テ鑑定スルヲ得サルヤ否ヤヲ決スルコトハ自分ノ意思ニ於テ決シ得ル事ナレハ敢
テ困難ニアラサル可シ敢テ三氏ノ猛省ヲ促ス者ナリ